

令和元年度事業報告書

令和2年5月

横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	9
2-1	24時間365日の救急医療及び二次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組	28
3-1	心臓病センター	
3-2	がんセンター	
3-3	入退院支援センター	
4	地域医療の質の向上に向けた取組	38
4-1	医療における安全管理（安全）	
4-2	医療における安全管理（感染）	
4-3	医療倫理に基づく医療の提供	
4-4	地域医療機関との連携・支援（医療連携課）	
4-5	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4-6	市民委員会	
4-7	治験・受託研究	
4-8	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-9	患者サービス	
4-10	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	64
5-1	職員研修（医師）	
5-2	職員研修（看護部）	
5-3	職員研修（薬剤部）	
5-4	職員研修（医療技術部門）	
5-5	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	74
6-1	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-2	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-3	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
7	職員	80
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
8	施設管理	83
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	89
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

1 概要

1-1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成 17 年 4 月 1 日

4 病床数

634 床（一般 584 床、精神 50 床）

5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上 36 科

6 沿革

- ・平成 15 年 3 月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成 15 年 9 月 横浜市会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成 15 年 11 月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成 16 年 1 月 評価委員会が提案書による競争の結果として、
「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との評価報告書を市長に提出
- ・平成 16 年 2 月 横浜市会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成 16 年 9 月 横浜市会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」に決定
- ・平成 17 年 4 月 横浜市立みなと赤十字病院が開院 初代院長 西岡 清
病床数 584 床、23 診療科
瀬谷区にあった横浜市小児アレルギーセンター（平成

17年3月31日閉院)の機能を移転

- ・平成18年4月 精神科診療開始(入院は平成19年5月から)
- ・平成18年9月 地域医療機関向け広報誌「みなとからの風」発刊
- ・平成19年3月 病院機能評価 Ver5.0 取得
- ・平成19年5月 精神科50床運営開始、病床数634床
- ・平成19年7月 新潟県中越沖地震発生、救護班派遣
- ・平成21年2月 地域医療支援病院承認
- ・平成21年4月 救命救急センターの指定
- ・平成22年3月 神奈川県DMA T指定病院
- ・平成22年7月 第2代院長 四宮 謙一 就任
- ・平成23年3月 東日本大震災発生、救護班・神奈川DMA T派遣
災害備蓄倉庫竣工
- ・平成23年5月 病院広報誌「みなと赤十字病院だより」発刊
- ・平成23年11月 がんセンター、がん相談支援センター開設
- ・平成24年3月 病院機能評価 Ver6.0 取得
- ・平成24年4月 地域がん診療連携拠点病院の指定
- ・平成24年7月 地域周産期母子医療センターの認定
- ・平成24年11月 病院広報誌リニューアル、「みんなのみなと」発刊
- ・平成25年1月 PET/CT導入
- ・平成25年4月 標榜科を23診療科から36診療科へ細分化
- ・平成26年2月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入
- ・平成26年3月 神奈川県DMA T-L指定病院
- ・平成26年11月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区
海上保安本部と合意
- ・平成27年4月 臨床試験支援センター開設
リハビリテーションセンター開設
外傷センター開設
心臓病センター開設
- ・平成27年9月 平成27年9月関東・東北豪雨発生、救護班・神奈川DMA
T派遣
- ・平成27年10月 カスタマーリレーションセンター開設
新MRI導入(PHILIPS社製 Ingenia 3.0T CX)
- ・平成28年4月 平成28年4月熊本地震発生、救護班派遣
- ・平成28年5月 東京国際空港(羽田空港)大韓航空機火災事故に救護班を
派遣
- ・平成29年3月 病院機能評価(一般病院2 3rdG: Ver1.1)取得
- ・平成29年4月 第3代院長 野田 政樹 就任
入院支援センター開設

- ・平成 29 年 6 月 人間ドック健診施設機能評価の認定を取得
- ・平成 30 年 2 月 横浜市乳がん連携病院に指定
- ・平成 30 年 4 月 ハイブリット手術室 稼動開始
D P C 特定病院群に指定
入院支援センターを入退院支援センターに組織変更
- ・平成 30 年 9 月 北海道胆振東部地震発生、救護班派遣
- ・平成 30 年 10 月 神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院に選定
- ・平成 31 年 2 月 特定行為研修指定研修機関に指定
- ・平成 31 年 4 月 神奈川県難病医療支援病院に指定
- ・令和元年 6 月 第 4 代院長 伊藤 宏 就任
- ・令和元年 9 月 京急線・トラック衝突事故に神奈川 D M A T 派遣
令和元年台風第 15 号災害発生、千葉県に救護班派遣
- ・令和 2 年 1 月 がんゲノム医療連携病院に指定
- ・令和 2 年 2 月 新型コロナウイルス感染症に係るクルーズ船対応に D M A T 派遣

1-2 建物図

8階	病棟 コンシェルジュデスク
7階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟
6階	A病棟 B病棟 C病棟 D病棟 患者図書室
5階	A病棟 C病棟 D病棟 NICU 透析室 精神科外来 めまい・平衡神経科外来 化学療法センター 臨床教育研修センター スキルラボ 理容室 コンビニエンスストア
4階	電気室・機械室
3階	管理部門（院長室 副院長室 看護部長室 事務部長室） 救急病棟 ICU HCU 手術室 心臓カ テーテル室 医局 医局図書室 看護部 事務部 医療情報センター 会議室
2階	健診センター プレストセンター アレルギーセンター 緩和ケアセンター 放射線科（X線撮影 CT MRI 血管撮影 心臓カテーテル） 内視鏡検査室 検査部（検体 輸血 病理 細菌） 調度課・SPD ME 栄養課 調理室
1階	総合内科（内分泌内科、リウマチ科、血液内科） 消化器内科 外科 心臓病センター（循環器内科、 心臓血管外科） 脳神経センター（神経内科、脳神経外科） 麻酔科 呼吸器病センター（呼吸器内 科・呼吸器外科） 整形外科 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 耳鼻いんこう科 眼科 小児科 産婦人科 形成外科 歯科口腔外科 リハビリテーションセンター 薬剤部 中央検査（採血 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波） 救急外来（受付 診察室 処置室 X線撮影 CT室） 総合案内 入退院支援センター 療養・福祉相談室 医療連携センター 栄養指導室 初診受付 再診受付 再来受付コーナー 保険証確認窓口 処方箋 FAX コーナー 証明書発行受付 中央待合ホール 自動精算機 正面入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 防災センター レストラン カフェ ATM コンビニエンスストア
B1階	放射線科（RI リニアック PET/CT） 地下出入口 地下駐車場 霊安室 職員食堂
B2階	免震ピット

1-3 施設基準取得状況

1 基本診療科

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算 2
歯科診療特別対応連携加算 急性期一般入院基本料 1 総合入院体制加算 1
超急性期脳卒中加算 診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2 (50 対 1)
急性期看護補助体制加算 (25 対 1) 看護職員夜間配置加算 (12 対 1)
療養環境加算 重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算 1
精神科応急入院施設管理加算 摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算 1 感染防止対策加算 1
患者サポート体制充実加算 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 呼吸ケアチーム加算
後発医薬品使用体制加算 1 病棟薬剤業務実施加算 1 病棟薬剤業務実施加算 2
データ提出加算 2 入院時支援加算 認知症ケア加算 2
精神疾患診療体制加算 地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料 1 特定集中治療室管理料 1 ハイケアユニット入院医療管理料 1
小児入院医療管理料 4 緩和ケア病棟入院料 1 精神科救急・合併症入院料

2 特掲診療料

糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ がん患者指導管理料ロ がん患者指導管理料ハ
糖尿病透析予防指導管理料 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
地域連携小児夜間・休日診療料 2 院内トリアージ実施料 ニコチン依存症管理料
療養・就労両立支援指導料 開放型病院共同指導料
ハイリスク妊産婦共同管理料 (I) がん治療連携計画策定料 排尿自立指導料
ハイリスク妊産婦連携指導料 1 肝炎インターフェロン治療計画料 薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1 医療機器安全管理料 2 医療機器安全管理料 (歯科)
在宅患者訪問看護・指導料 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
歯科疾患管理料の注 11 に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
有床義歯咀嚼機能検査 1 のイ 有床義歯咀嚼機能検査 1 のロ及び咀嚼能力検査
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)
検体検査管理加算 I 検体検査管理加算 II
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法 ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査 神経学的検査 補聴器適合検査

小児食物アレルギー負荷検査 内服・点滴誘発試験 画像診断管理加算 1
 ポジトロン断層撮影 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
 CT撮影及びMRI撮影 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算 1
 無菌製剤処理科 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 運動器リハビリテーション料 (I) 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料 歯科口腔リハビリテーション料 2
 抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
 医療保護入院等診療料 人工腎臓 導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
 透析液水質確保加算 1 及び慢性維持透析濾過加算 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
 手術用顕微鏡加算 CAD/CAM冠
 皮膚悪性腫瘍切除術 (悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
 組織拡張器による再建手術 (一連につき) (乳房 (再建手術) の場合に限る。)
 脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。) 及び脳刺激装置交換術
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 (過活動膀胱に対して実施する場合)
 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術 (過活動膀胱に対して実施する
 場合) 緑内障手術 (水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検 (併用)
 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検 (単独)
 乳腺悪性腫瘍手術 (乳頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴わないもの) 及び乳
 頭乳輪温存乳房切除術 (腋窩郭清を伴うもの))
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術 (乳房切除後)
 経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの) 胸腔鏡下弁形成術
 胸腔鏡下弁置換術 経カテーテル大動脈弁置換術 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)
 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
 植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除
 細動器交換術
 大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)
 経費的循環補助法 (ポンプカテーテルを用いたもの)
 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
 胆管悪性腫瘍手術 (臍頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上) を伴うものに限る。)
 体外衝撃波胆石破砕術 腹腔鏡下肝切除術 体外衝撃波膀胱石破砕術
 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 膀胱水圧拡張術

腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術 人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下仙骨隆固定術 手術の休日加算 1、時間外加算 1 及び手術の深夜加算 1
胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下造設術を含む。）
輸血管管理料Ⅰ 輸血適正使用加算 自己生体組織接着剤作成術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
広範囲顎骨支持型装置埋入手術 歯根端切除手術の注3 麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ） 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療 1回線量増加加算
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算 定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算 病理診断管理加算 1
悪性腫瘍病理組織標本加算 クラウン・ブリッジ維持管理料

3 入院時食事療養

入院時食事療養Ⅰ 特別食加算 食堂加算

4 評価療養

医薬品の治験に係る診療

医療機器の治験に係る診療

医薬品医療機器等法に基づく承認又は認証を受けた医療機器又は体外診断用医薬品

5 選定療養

病床数が 200 床以上の病院について受けた初診・再診（医科・歯科）

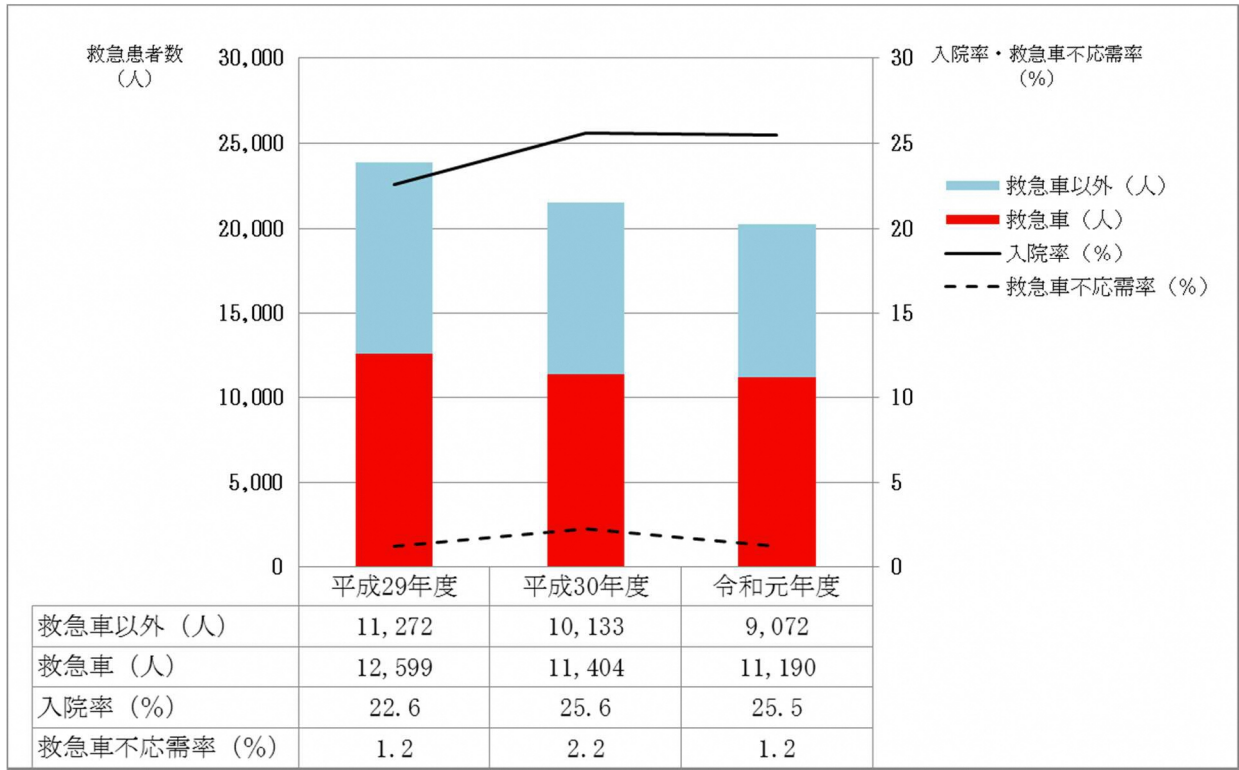
特別の療養環境の提供 入院期間が 180 日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療及び二次救急医療

1 データ

来院経路別救急患者数と入院率・救急車不応需率



2 成果

救急車による受入患者数は年間 11,190 名であり昨年同様、依然全国トップクラスの実績である。救急車要請の不応需率は 2.2% から 1.2% に減少し、断らない救急医療の実践を反映している。救急車以外の受診患者数は減少傾向にあり、救急患者全体の入院率は 25.5% とほぼ昨年同様であった。特記すべきは、平成 30 年の全国救命救急センター充実段階評価において新しく設定された最上位の S 評価（今回 76 施設）を 2 年連続で得られたことである。引き続き、救命救急センターの質の向上に努めていきたい。

3 課題

救急患者を断らないことは、地域医療のセーフティネットとしてきわめて重要なことである。しかし、他院で断られる患者を受け入れることは、同時に精神疾患・貧困・慢性アルコール依存・暴力的患者などの問題を抱える症例を多く受け入れることでもある。救急外来における職員への暴力・暴言・迷惑行為なども少なからず発生しており、救急に関わる職員のモチベーションを維持していくことが喫緊の課題である。

2-2 小児救急医療

1 データ・成果

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
小児科救急患者数	3,076 件	3,713 件	2,961 件	2,460 件
うち、入院患者数	410 件	346 件	295 件	262 件
救急車受入件数	879 件	990 件	868 件	815 件
新入院患者数	1,106 人	1,147 人	1,251 人	1,160 人
児童虐待防止委員会	定例会 2 回	定例会 1 回	定例会 2 回	定例会 2 回
	臨時 3 回	臨時 12 回	臨時 5 回	臨時 6 回

近年の傾向として救急患者数の減少している。小児人口の減少さらに予防接種の普及による急性疾患の減少によるものである。

小児人口の減少と小児の疾病構造が変化したことが報告されているが、地域の小児救急患者には適切に対応している。

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元 年度
新生児搬送受入数	13	4	7	7	12	6	3	3

神奈川県周産期医療体制整備計画等により横浜市内のNICUは充足している。また、総合周産期母子医療センター（基幹病院）のNICU増床もあり、基幹病院で受入困難な新生児搬送は減少している。基幹病院のNICUに余裕があるため基幹病院から中核病院へのバックトランスファーも減少していると考えられる。平成 29 年度にNICU加算 2 の要件を満たせず同算を取り下げたことにより看護体制が手薄になり、更に受入れが難しくなるなど悪循環となっている。

救急患者は減少しているが、地域では支援が必要な家庭は増加していると推定されている。不適切な療育が疑われる受診には、医療社会事業課を通じ、在住区への情報提供を行っている。

2 課題

予防接種の普及、少子化による小児急性期疾患患者の減少は今後も続くことが予想される。小児科における 24 時間、365 日の小児救急対応に必要な小児科医師数には変わりはないが、患者数の減少による収益減少への対応が課題である。また、当院だけでなく広域な小児救急医療体制の再考が必要になってくる。

2-3 周産期救急医療

1 データ

周産期救急医療は主に母体搬送、新生児搬送であるが、妊娠中の卵巣嚢腫茎捻転、虫垂炎、頭蓋内疾患、感染性疾患も時にある。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩なども含まれる。更に精神疾患、身体疾患合併妊婦の妊娠中期以降、必要時からの受入れも病病連携または病診連携として行っており、これは広義の周産期救急に当てはまる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成 24 年 7 月 25 日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受入れの基準は妊娠 34 週以降、推定体重 1,500g 以上としている。

<母体搬送受入れ数>

平成 28 年度 9 例

平成 29 年度 10 例

平成 30 年度 10 例

令和元年度 7 例

<飛び込み分娩数>

平成 28 年度 1 例

平成 29 年度 0 例

平成 30 年度 0 例

令和元年度 0 例

<分娩総数>

平成 28 年度 666 例

平成 29 年度 603 例

平成 30 年度 785 例

令和元年度 653 例

2 成果

分娩総数は 650 件前後である。常勤医師 9 名（うち 2 名は当直なし、2 名は後期研修医のため単独での当直なし）で対応している。

産科は 24 時間 365 日の体制で当直を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、手術室、麻酔科も協

力の上で成り立っていることである。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考える。

3 課題

慢性的な産科・新生児科医師不足により診療制限を行う必要がある。ハード面、医師数、助産師数から安全面を考慮し限界がある。次年度以降の取組としては、特に新生児科医師の確保を図り、ハイリスク妊娠の管理において安全が確保された体制を作る必要がある。そのためには、産科常勤医師 10 名以上、麻酔科当直体制などが必要である。依然として産科常勤医師を安定的に確保する見通しは立っておらず、大学からの医師派遣と、後期研修医の就職と教育が必要である。助産師については、安定して確保しているものの、分娩数の増加に対応し、安全な分娩を行うためには、より多くの助産師を確保することが望まれる。

また、無痛分娩、院内助産などはすでに施行しているが、更に充実させることにより分娩の質の向上、満足度の向上も図りたい。

2-4 精神科救急医療

1 データ

令和元年度実績

	受入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3次救急	24	22	22	0	0	16	6	0
2次救急	7	7	—	7	0	5	2	0

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
3次救急	39	51	44	26	31	34	37	32	24
2次救急	9	7	9	13	13	14	11	8	7

2 成果

- ・実施要項に準じて人員を配置し、精神科救急医療を滞りなく行えた。
- ・政策医療とは別に、自殺企図例などで救急病棟より精神科病棟に入院する例もある。

3 課題

- ・精神科救急医療を掲げているが、実際は身体合併症がある精神科救急患者が選択的に送られてくる問題がある。また、そのような身体合併症があるケースの後方転送が滞る状況が依然続いている。
- ・基幹病院は待機拘束時間が多い割に受入れ患者数は少なくシステムの効率が悪い。救急システムの在り方について各基幹病院、後方病院、行政を交えて意見交換をし、改正していく時期に来ている。
- ・救急部を受診したが身体的な問題はなく、精神症状のみ入院適応がある患者がいる。当院の精神科病棟が満床の場合に、受入れ先の調整に苦慮することがある。

2-5 精神科身体合併症医療

1 データ

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
身体合併症事業計		130	98	90
当院受入れ数		90	82	75
入院数		62	63	52
平均在院日数		16.2	21.3	27.0
転帰	依頼元病院	56	60	47
	他病院	2	0	0
	退院	2	1	3
	入院中	1	0	1
	死亡	1	2	1

2 成果

- ・平成 20 年度以降、当院の年間の受入れ数は身体合併症転院事業の 7～8 割にあたるが、令和元年度は事業総数の 8 割以上を受け入れることができた。
- ・この他、時間外に行政を介さずに受け入れた症例もある。

3 課題

- ・引き続き、身体科医師の協力体制のもとで同事業を円滑に進める。
- ・保護室が必要な症例に関して精神科救急ベッドの空床状況によっては受入れが困難になる場合がある。

2-6 緩和ケア医療

1 データ

(1) 緩和ケア病棟実績

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院患者	実数	295 名	358 名	295 名
	延べ数	7,555 名	6,847 名	4,659 名
	緊急入院数	28 名	56 名	28 名
平均在院日数		25.6 日	18.9 日	15.8 日
患者実数	男	150 名	171 名	165 名
	女	145 名	187 名	130 名
平均年齢		71.8 歳	75.2 歳	74.0 歳
退院内訳	退院	295 名	365 名	289 名
	うち死亡	274 名	304 名	245 名
稼働率		82.8%	75.0%	50.9%
緩和ケア病棟への入院経路	院内転棟	112 名	97 名	106 名
	市内医療機関からの紹介	130 名	235 名	158 名
ボランティア延べ人数		59 名	57 名	61 名

(2) 緩和ケアチーム実績

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
緩和ケアチームへの依頼数	新規	173 件	144 件	137 件
	継続	5 件	8 件	9 件
	延べ件数	1,618 件	1,628 件	1,230 件
麻薬管理加算		145 名	124 名	114 名
入院精神療法加算		18 名	23 名	13 名

緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケアが	95%
せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケアが	5%

2 成果

- ・令和元年9月に常勤医1名の退職で、10月以降、緩和ケア内科常勤医1名に、非常勤医1名の応援を得て、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、緩和ケア外来の運営を行っている。
- ・上記のため、緩和ケア病棟においては、10月以降、院内からの転棟では、各科が主治医を継続し、院外からの入院には緩和ケア内科医が担当し、多職種との共同で緩和医療を行った。
- ・令和2年2月半ばから緩和ケア病棟が新型コロナウイルス感染症患者の受入れ病棟になったため、3月下旬まで、緩和ケア患者の受入れがストップした。
- ・神奈川県がん診療連携協議会の緩和ケア部会への参加、交流を通し、他の病院とのピアレビューも行い、緩和ケアの情報の共有、質の向上、他の病院との連携を深めた。
- ・大学から専門医の応援を得て、病棟・チーム・外来で、緩和ケアの知識、技術、連携の向上を目指している。
- ・苦痛のスクリーニングでは、全てのがん患者を対象に行った。
- ・緩和ケアの知識・技術の習得・向上のため、院内・院外からの協力を得て、緩和ケア研修会を令和元年12月に開催した。
- ・院内・地域の緩和ケアの啓蒙・普及のため、緩和ケア講演会を令和元年10月に開催した。
- ・横浜・川崎病病連携会の下部組織として、緩和ケアを行う6病院の共同で、令和元年6月と10月に「横浜みんなの緩和ケア勉強会」を開催し、講演・ワークショップを通して知識・技術の習得・共有・向上と地域の多施設間での交流を図った。

3 課題

- ・緩和ケア内科常勤医の確保から病棟運営の安定と更なる質の向上を目指す。
- ・緩和ケアチームの介入を通して病院全体での苦痛の発掘、症状コントロールへの早期の対応、オピオイド使用などでの技術の向上を通して、患者のQOLの改善を目指す。
- ・各病棟にリンクナースが設置された。緩和ケアチームとの協働で、病院全体で、より一層の緩和ケアの定着を目指す。
- ・神奈川県がん診療連携協議会緩和ケア部会での他の病院との連携を深めつつ、院内での専門的緩和ケアへのアクセスの改善を目指す。
- ・研修会、講演会、勉強会等の開催を通し、緩和ケアの啓蒙、普及に引き続き貢献する。
- ・患者の入退院での情報交換を増やすなどして、連携する地域の医療機関の拡大と緊密化を図り、患者への切れ目のない医療の提供を目指す。

2-7 アレルギー疾患医療

1 データ（平成29～令和元年度比較）

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
外来アレルギー患者数 (延べ数)	22,683人	22,458人	23,684人
呼気一酸化窒素測定	3,969件	3,813件	3,292件
気道過敏性試験	117件	37件	55件
プリックテスト	216件	156件	173件
エピペン処方数	308件	326件	302件
喘息カンファレンス	6回	6回	6回
食物・薬物アレルギー カンファレンス	6回	5回	5回
食物アレルギー研修	42回	35回	62回
講演会	3回	3回	1回
みなとセミナー	2回	1回	1回
市民フォーラム	2回	2回	1回
患者教室	11回	11回	10回
小児喘息キャンプ	1回	1回	1回
誌上発表	25件	34件	23件
学会発表	36件	54件	42件
新薬開発治験	17件	14件	10件
自主臨床試験	20件	11件	7件

2 成果

市民への相談・情報提供、啓発活動については、前年度とほぼ同様の成果となったが、2月以降に開催を予定されていた教室や講演会等については、新型コロナウイルス感染症流行の影響で相次いで中止となった。保育所や学校等の職員に対する食物アレルギー指導研修業務の拡大のために、アレルギー専門小児科医師4名の協力を確保し、依頼元からの要望に柔軟に対応した。

臨床研究については、継続中のARMS研究（遠隔医療）とEARTH研究（環境アレルギー）の組み合わせによる「個別喘息予報」を平成28年度より配信開始し、患者の個別データをさらに活用できるよう取組を進めている。地域医療連携についても舌下免疫療法を目的とした病診連携会による連携を継続中である。

平成30年10月には神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院に選定された。

3 課題

日本専門医機構の指導により来年度に開始予定の新専門医制度下、アレルギーセンターがアレルギー専門医研修基幹施設に認定されるべく、引き続きアレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リウマチ内科のアレルギー専門医・指導医、リウマチ専門医・指導医の確保と育成に努める必要がある。

2-8 障害児者合併症医療

1 データ

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元年度
入院患者延べ人数	202 名	181 名	132 名	158 名
入院患者実人数	9 名	11 名	6 名	10 名
1 患者あたり入院回数	1～8 回	1～9 回	1～5 回	1～8 回
年齢	4～37 歳	2～27 歳	6～28 歳	2～28 歳
メディカルショートステイ利用者数	14 名	14 名	6 名	19 名
障害児者委員会	年 3 回開催	年 3 回開催	年 3 回開催	年 3 回開催

2 成果

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討した。

また、重度心身障害児者の現状把握のため、横浜市こども青少年局こども保健医務官の岩田眞美先生による研修会を実施した。

3 現状と課題

旧横浜市立港湾病院からの継続医療患者は実質 1 名となったが、引き続き適切に医療の提供を行う。

障害児者医療への職員の研修啓発に努めるとともに、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図りながら、横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として対象患者の受入れを継続する。

2-9 災害時医療

1 救護活動等の状況

(1) 医療救護班の派遣状況

①京急線・トラック衝突事故

ア) 神奈川県災害医療コーディネーター及びDMAT

- ・派遣日 令和元年9月5日(木)
- ・派遣場所 神奈川県保健医療調整本部(神奈川県庁内)
- ・活動内容 保健医療調整本部での医療コーディネート活動
- ・派遣職員 医師1名、業務調整員1名

②令和元年台風第15号災害

ア) 神奈川県災害医療コーディネーター及びDMAT

- ・派遣日 令和元年9月9日(月)
- ・派遣場所 神奈川県保健医療調整本部(神奈川県庁内)
- ・活動内容 保健医療調整本部での医療コーディネート活動
- ・派遣職員 医師1名、業務調整員1名

イ) 救護班

- ・派遣期間 令和元年9月13日(金)～9月16日(月)
- ・派遣場所 千葉県館山市等
- ・活動内容 安房地域保健医療調整本部が管轄する避難所等のアセスメント活動及び安房地域保健医療調整本部での本部活動
- ・派遣職員 医師1名、看護師3名、薬剤師1名、主事3名、神奈川県支部職員1名、神奈川県無線救急赤十字奉仕団員1名

ウ) 日赤災害医療コーディネーター

- ・派遣期間 令和元年9月16日(月)～9月19日(木)
- ・派遣場所 日本赤十字社千葉県支部、千葉県庁、安房地域保健医療調整本部等
- ・活動内容 各本部での医療コーディネート活動
- ・派遣職員 医師1名

③ダイヤモンド・プリンセス号に係る新型コロナウイルス感染症対応

ア) DMAT

- ・派遣日 令和2年2月6日(木)
- ・派遣場所 大黒ふ頭旅客船ターミナル等
- ・活動内容 クルーズ船から医療機関への救急搬送
- ・派遣職員 医師1名、看護師1名、業務調整員2名

イ) DMAT

- ・派遣日 令和2年2月7日(金)
- ・派遣場所 大黒ふ頭旅客船ターミナル
- ・活動内容 現場指揮本部での本部活動
- ・派遣職員 医師2名、看護師1名、業務調整員1名

ウ) DMAT

- ・派遣日 令和2年2月19日(水)
- ・派遣場所 大黒ふ頭旅客船ターミナル
- ・活動内容 患者搬送に伴うクルーズ船出入口での情報管理

- ・派遣職員 医師 2 名、業務調整員 3 名

エ) DMAT

- ・派遣日 令和 2 年 2 月 25 日 (火)
- ・派遣場所 神奈川県庁
- ・活動内容 神奈川県 DMAT 調整本部での本部活動
- ・派遣職員 医師 1 名、業務調整員

④横浜救急医療チーム (YMAT) の出動状況
横浜市内の救急・事故案等に 19 件出動

(2) 災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

開催日	訓練・研修会	会場	参加者
4 月 14 日	爆発物災害対策担当者養成講習会	主婦会館プラザ	救急部医師 2 名
5 月 13 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医療連携課 1 名、医療情報課 2 名
6 月 11 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	経営企画課 2 名、医療社会事業課 3 名、総務課 1 名、調度課 1 名
6 月 11 日	赤十字救護班主事研修会 BASIC	日本赤十字社神奈川県支部	薬剤師 1 名、診療放射線技師 1 名、理学療法士 2 名、医療社会事業課 1 名、医療情報課 1 名、医療連携課 1 名、施設課 1 名、外来業務課 1 名、人材開発課 2 名
6 月 29 日 ～30 日	救護員としての赤十字看護師養成研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 27 名
7 月 11 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	健診課 2 名、医療情報課 3 名、人材開発課 6 名
7 月 12 日	救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 6 名
7 月 22 日	救急車・トラック等運転技術研修	伊勢原自動車学校	放射線科部 1 名、人材開発課 1 名、総務課 1 名、会計課 1 名、救急災害業務課 2 名
7 月 29 日	テロ災害対応訓練	日本大通り駅	救急部医師 2 名、看護部 1 名、救急災害業務課 1 名、検証：救急部長 1 名
8 月 7 日	大型旅客船事故対応訓練	客船「にっぽん丸」、大棧橋、横浜海上防災基地	救急部医師 2 名、看護部 3 名、人材開発課 1 名、救急災害業務課 2 名、検証：救急部長 1 名
8 月 13 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医療社会事業課 2 名、施設課 3 名、入院業務課 2 名、

			医療安全推進課 1 名、感染管理室 1 名
8 月 31 日	ビッグレスキューかながわ	伊勢原総合運動公園	救急部長 1 名、集中治療部医長 1 名、看護部 2 名、救急災害業務課 2 名
9 月 6 日	救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 7 名
9 月 7 日	総合防災訓練及び大規模地震時医療活動訓練	横浜市立みなと赤十字病院他	職員 29 名
9 月 8 日	九都縣市合同防災訓練	川崎会場(河原町グラウンド)	救急部長 1 名、看護部 3 名、作業療法士 1 名、経営企画課 1 名
9 月 11 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医療社会事業課 3 名、人材開発課 4 名
9 月 12 日 ～13 日	通信エキスパート研修	スカパー J S A T 横浜衛星管制センター	救急災害業務課 1 名
9 月 12 日 ～14 日	DMA T 隊員養成研修	大阪医療センター	看護部 1 名
9 月 25 日	横浜市公共建築物に係わる震災時の応急措置の協力に関する協定に基づく即時出動訓練	横浜市立みなと赤十字病院	施設課、防災センター
9 月 30 日	DMA T 技能維持研修	大田区産業プラザ P I O	看護部 1 名
10 月 5 日～ 6 日	救護員としての赤十字看護師養成研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 27 名
10 月 21 日 ～24 日	日本災害医療ロジスティクス研修	岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター	集中治療部医長 1 名
11 月 2 日～ 4 日	N B C 災害・テロ対策研修	筑波大学付属病院	救急部医師 1 名、看護部 2 名、医学物理士 1 名、救急災害業務課 1 名
11 月 7 日	救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 5 名
11 月 8 日	内閣官房新型インフルエンザ等対策訓練	横浜市立みなと赤十字病院	総務課 1 名
11 月 9 日	救護員対象こころのケア研修会(みなと主催)	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 13 名、人材開発課 2 名、医療連携課 1 名、会計課 2 名、救急災害業務課 1 名
11 月 11 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医療社会事業課 3 名、調度課 3 名
11 月 12 日	救護班要員教育訓練 I	日本赤十字社神奈川県支部	救急部医師 1 名、看護部 3 名、外来業務課 1 名、会計

			課 1 名
11 月 14 日	透析室災害研修会	横浜市立みなと赤十字病院	医師 3 名、看護師 4 名、臨床工学技士 3 名
11 月 20 日 ～21 日	救護班要員教育訓練Ⅱ	いこいの村あしがら	救急部医師 1 名、看護部 3 名、外来業務課 1 名、会計課 1 名
11 月 23 日 ～24 日	関東ブロック D M A T 訓練	茨城県	救急部長 1 名、集中治療部医長 1 名
11 月 25 日	赤十字医療施設事業継続計画（B C P）研修会	日本赤十字社本社	救急災害業務課長 1 名
11 月 27 日	救護員としての赤十字看護師研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 40 名
11 月 30 日、 12 月 1 日	かながわ D P A T 研修	厚木市立厚木南公民館	精神科部医師 1 名、看護部 1 名、会計課長 1 名
12 月 7 日～ 8 日	日赤災害医療コーディネーター研修会	日本赤十字社本社	集中治療部医長 1 名、看護部 1 名
12 月 10 日	救護員のための赤十字看護師養成研修①	日本赤十字社神奈川県支部	看護部 4 名
12 月 10 日	透析室防災訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医師 5 名、看護師 5 名、臨床工学技士 2 名、救急災害業務課 2 名
12 月 11 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	入院業務課 1 名
12 月 13 日 ～14 日	D M A T - L 隊員養成研修	平塚看護大学校	看護部 1 名
12 月 19 日	救護員としての赤十字看護師研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 41 名
12 月 21 日 ～22 日	D M A T ロジスティックチーム隊員養成研修（理論習熟編）	国立病院機構本部	看護部 1 名
1 月 8 日～ 10 日	D M A T 隊員養成研修	災害医療センター	救急部医師 1 名
1 月 14 日	神奈川県災害通信訓練及び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十字病院	医療社会事業課 3 名、調度課 1 名
1 月 15 日	救護員のための赤十字看護師養成研修②	日本赤十字社神奈川県支部	看護部 4 名
1 月 21 日	救護員としての赤十字看護師フォローアップ研修	横浜市立みなと赤十字病院	看護部 6 名
1 月 30 日	神奈川県国民保護研修会	神奈川県庁	看護部 2 名、救急災害業務課 1 名
2 月 1 日～ 3 日	全国赤十字救護班研修会	日本赤十字社東京都支部	救急部医師 1 名、アレルギーセンター 1 名
2 月 2 日	かながわ D P A T 技能維持研修	かながわ県民ホール	施設課 1 名

2月9日	運河栈橋を利用した関係 機関合同負傷者搬送訓練	みなと赤十字病院	救急部医師2名、看護部3 名、会計課1名、救急災害 業務課3名
2月13日	救護員対象こころのケア 研修会	日本赤十字社神奈川 県支部	看護部11名
2月19日	救護員としての赤十字看 護師フォローアップ研修	横浜市立みなと赤十 字病院	看護部8名
3月11日	神奈川県災害通信訓練及 び院内通信訓練	横浜市立みなと赤十 字病院	救急災害業務課3名

(3) 救護体制及び主要資機材

①医療救護班

- ・ 救護班7班（医師7名、看護師21名、薬剤師7名、主事14名）
- ・ 日本DMAT 2チーム^{注1}（医師3名、看護師6名、業務調整員4名）
- ・ 神奈川DMAT-L 3チーム^{注2}（医師6名、看護師5名、業務調整員6名）
- ・ かながわDPAT（神奈川県災害派遣精神医療チーム） 隊員10名（医師1名、看護師5名、業務調整員4名）
- ・ YMAT（横浜救急医療チーム） 隊員21名（医師10名、看護師11名）

※注1：日本DMATのチーム数は、日本DMAT活動要領の「DMAT 1隊の構成は、医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名」に基づき、同時に編成が可能なチーム数。

※注2：神奈川DMAT-Lのチーム数は、神奈川DMAT-L運営要綱の「医師、看護師、業務調整員からなる1チーム5人編成を基本とする。」に基づき、各職種最低1名以上で同時に編成が可能なチーム数。

②救護資機材等

救急車2台、医師派遣用緊急車両1台、救護班用医療セット1式、DMAT標準医療資機材1式、YMAT資機材1式、日赤業務無線機等22台、神奈川県MCA無線1台、横浜市MCA無線1台、衛星電話1台（庁舎設置）、衛星携帯電話2台、（可搬型1台、救急車積載1台）、デジタル個人線量計28台、簡易ベッド540台、NBC災害除染セット1式、ドラッシュテント1式、エアータント1式、イージーアップテント2式、発動発電機7台、大容量ポータブル蓄電池1台、災害用マンホールトイレ2基、下水直結型災害用トイレ5基、患者用非常食3日分、職員用非常食3日分

2 成果

- ・ 当院のヘリポートは24時間365日の運用としている。夜間でもヘリコプターを運航する第三管区海上保安本部とは、ヘリコプターで救助した傷病者の直接搬送受入れの運用を実施している。また、横浜市消防局ヘリコプターが救助した傷病者についても、日没間際等の理由で地上救急隊への引継ぎが困難な場合は、当院への直接搬送を受け入れる体制としている。この体制に基づき、1月には箱根でハイキング中に負傷した傷病者を救助した横浜市消防局のヘリコプターが、日没近くの夕方に当院へ直接搬送を行った。
- ・ 台風15号災害では、救護班、日赤災害医療アドバイザーを千葉県へ派遣し

た。

- ・台風 19 号災害では、院内に災害対策本部を設置して対応した。開院以来初めて、実災害対応のために防潮設備を稼働させた。
- ・ダイヤモンド・プリンセス号に係る新型コロナウイルス感染症対応では、当院が大黒ふ頭に近いこともあり、複数回、DMATを派遣した。

3 課題

災害時に関係機関が連携して活動するためには、日頃から顔の見える関係を築いておくことが重要と言われている。当院でも関係機関との訓練、研修会、会議等を通じ、日頃から地域の関係者との顔の見える関係を構築し、災害時には災害拠点病院としての機能を発揮して地域の災害医療の貢献できるよう取り組んで行きたい。

2-10 市民の健康危機への対応

1 データ・成果

(1) 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対応

令和2年2月上旬、横浜港に寄港したダイヤモンド・プリンセス号の新型コロナウイルス感染症の患者対応については、大黒ふ頭等にDMATを派遣して現地での対応を行うとともに9人の入院患者を受け入れた。入院患者の受入れにあたっては、救急病棟の1床、緩和ケア病棟の12床を専用病床として運用した。

また、救急搬送等による3人の入院患者を受け入れるなど市中発生患者にも対応した。

<令和元年度・新型コロナウイルス感染症患者受入状況>

区分		人数
入院患者	ダイヤモンド・プリンセス号	9人
	市中発生	3人

<主な経過>

日付	経過
2月4日	横浜市新型コロナウイルス感染症に係る医療関係者連絡会（横浜市保健所から協力要請）
2月6日	DMAT派遣（以後2月7日・19日・25日も派遣）
2月7日	救急病棟の1床で新型コロナウイルス感染症の入院患者を受入れ
2月14日	緩和ケア病棟の12床を新型コロナウイルス感染症の軽症患者受入れ病床として運用開始（3月23日まで継続）
3月9日	横浜市新型コロナウイルス感染症に係る医療関係者連絡会（横浜市保健所からPCR検査保険適用等の説明）
3月27日	新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部から「新型コロナウイルス感染症の患者数が大幅に増えたときに備えた入院医療提供体制等の整備の改訂及び「神奈川モデル」について」通知

(2) 新型インフルエンザ等対策訓練等

- ・内閣官房新型インフルエンザ等対策室による新型インフルエンザ等対策訓練に伴い横浜市が実施した情報伝達訓練に参加し、院内の情報伝達体制を確認した。
- ・新型インフルエンザ等発生時における帰国者・接触者外来の開設に関し、他病院の訓練を情報共有した。
- ・横浜市の抗インフルエンザ薬の備蓄計画の見直しに伴い、院内での抗インフルエンザ薬使用状況を考慮し、薬剤ごとの備蓄割合（薬局備蓄含む）を再検討した。

・横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開催日	第 16 回 3 月 6 日	未実施	第 17 回 11 月 14 日

2 課題

新型コロナウイルス感染症対応は、3月27日に新型コロナウイルス感染症神奈川県対策本部から示された「神奈川モデル」に基づき、令和2年4月以降、移行期・蔓延期等のフェーズに応じて、院内体制を強化して患者を受け入れている。疑似症患者への対応、防護資器材の安定的な確保などが課題となっている。

新型インフルエンザ等対策訓練等については、横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会等と連携して、資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進めるとともに、帰国者・接触者外来開設の準備を進める。

3 指定管理者独自の取組

3-1 心臓病センター

1 概要

心臓病センターは、循環器内科と心臓血管外科の2診療科で構成され、患者の疾患、病状に応じた最適な循環器診療を提供することを基本方針としている。

循環器内科・心臓血管外科・コメディカルの垣根を取り払い、ハートチームで循環器治療に精通した医師・看護師・臨床検査技師・臨床工学師らの連携を密にとり、柔軟かつ的確な治療方針決定が可能となり、医療の効率化と安全性向上が実現する。

夜間も常時院内に循環器担当医が待機しており、虚血症心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心臓弁膜症や諸々の心筋疾患、そして、心不全、不整脈並びに大動脈や末梢動静脈疾患と、循環器疾患の診断・治療全般を扱っている。循環器系救急疾患では、ICU・血管撮影室（心臓カテーテル室）にて緊急インターベンションを含め心臓血管外科との共同で365日24時間万全の体制で対応している。

2 実績・成果

(1) カテーテルアブレーション

<令和元年度 循環器内科診療実績>

	令和元年度 (2019年度)
入院患者数	1,816
心臓カテーテル検査	990
経皮的冠動脈形成術	332
カテーテルアブレーション	658
ペースメーカー植え込み	94
ICD植え込み心臓再同期療法（CRT）	32

不整脈治療に関しては、主に心房細動の治療が多くを占める。当院は、不整脈の根治療法である「カテーテルアブレーション」においては、本邦において第一例目を成功した後、全国から多くの患者がこの治療を受けに訪れ、特に他施設において不成功に終わった例などの難渋例を多く手掛け成功させている。

平成30年度には日本循環器学会が出している心房細動ガイドラインも改訂され、難治性の心房細動、特に僧帽弁輪を旋回する心房頻拍に対しては化学的アブレーションが有効であるという文言が初めて記載された。この化学的アブレーションに関しては、当院が日本で初めて導入を行い、その成果や有効性を数多くの学会や論文にて発表し証明をしてきた。今回その甲斐あって、日本循環器学会もアブレーション治療ガイドラインの中に、その有効性について初め

て言及を行った。世界を見渡しても、アブレーション治療ガイドラインの中に、化学的アブレーションについて記載した学会はなく、世界に先駆けて日本循環器学会がその有効性を認めガイドラインに収載したことは画期的なことである。

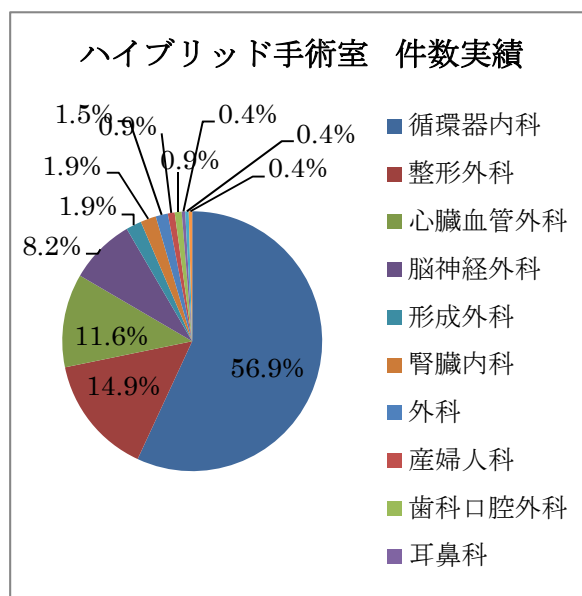
また、当院のアブレーション治療のもう1つの特徴は、心房細動に対するクライオバルーンを用いた治療件数が非常に多いことであり、症例数も技術も日本トップクラスと考えられる。クライオバルーン治療に関しては特に、当院独自の工夫を重ね、安定した良好な成績を得ている。今後もより良い治療が提供できるよう邁進する予定である。

(2) ハイブリッド手術室

平成30年4月よりハイブリッド手術室の運用が開始され、高性能な心・血管X線撮影装置と手術台を設置し、最近急速に増加している各分野の血管内治療・最新医療に対応することが可能となっている。

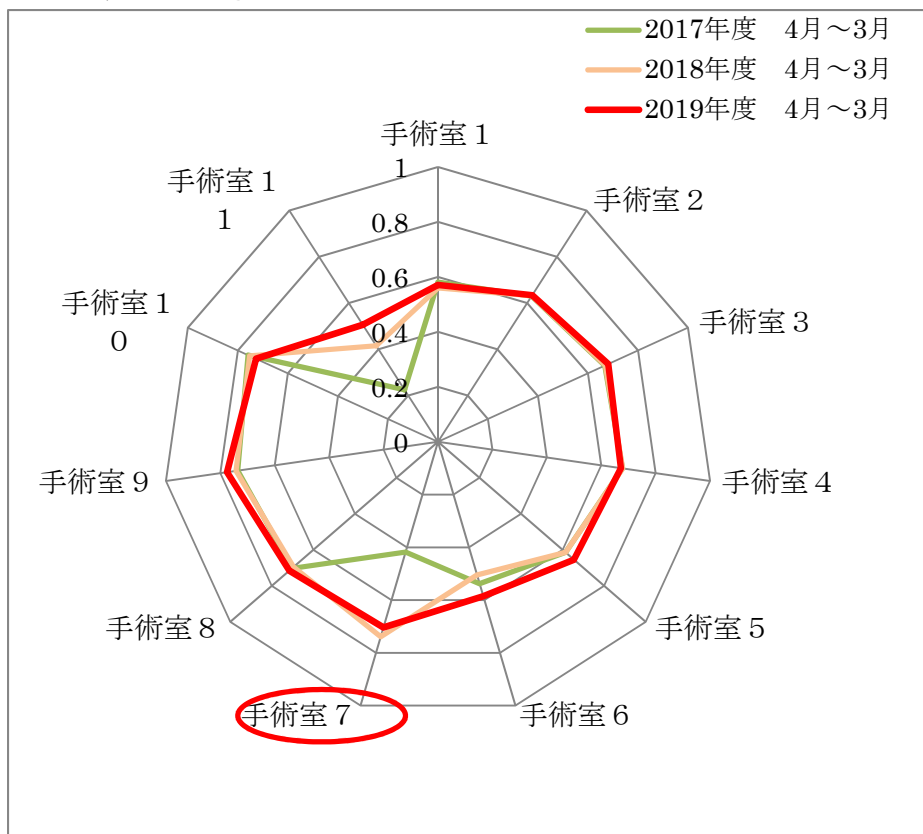
<令和元年度 ハイブリッド手術室件数実績>

診療科	件数	使用割合
循環器内科	264	56.9%
整形外科	69	14.9%
心臓血管外科	54	11.6%
脳神経外科	38	8.2%
形成外科	9	1.9%
腎臓内科	9	1.9%
外科	7	1.5%
産婦人科	4	0.9%
歯科口腔外科	4	0.9%
耳鼻科	2	0.4%
泌尿器科	2	0.4%
皮膚科	2	0.4%
合計	464	



ハイブリッド手術室使用実績は、循環器内科による経皮的カテーテル心筋焼灼術・ペースメーカー植え込み術 年間 264 件 (56.9%)、整形外科による経皮的椎体形成術 年間 69 件 (14.9%)、心臓血管外科による経カテーテル大動脈的大動脈弁置換術 (TAVI)・胸部・腹部大動脈ステント内挿術 年間 54 件 (11.6%) が主なものとなっている。

<手術室稼働率の状況（平成 29 年度・平成 30 年度・令和元年度）>



手術室全体の稼働状況は、「手術室 7」が平成 30 年度からハイブリッド手術室となったことで稼働率（42%→74%→70%）も増加を維持しており、全体の手術件数の増加にも寄与している。また、ハイブリッド手術室を使用する診療科も 6 診療科から 12 診療科と増加しており、今後も地域へ高度医療を提供するハイブリッド手術室の効率的な運用が課題である。

(3) 経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)

「大動脈弁狭窄症」の治療法である「経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI)」の実施施設として平成 31 年 4 月 11 日認定された。厳しい認定基準をクリアし、神奈川県では 9 番目の認定施設となった。認定施設となった初年度の令和元年度の TAVI 治療は 11 件であった。

<治療成績>

- 患者数 11 例
- 患者平均年齢 84 歳
- 平均在院日数 12.7 日
- 術後平均在院日数 8.1 日
- 合併症なし
- 全例独歩退院

患者は、高齢で多数の並存疾患をもち、従来の開胸手術での予測 30 日手術死亡率は平均 12.7% (Logistic Euro Score II) であったのに対し、TAVI 治療では全例早期に回復し、大きな合併症なく独歩退院され、満足のいく手術成績であった。

今後は安全性を確保しつつ症例数を増やし、地域への高度医療の提供を目指していく。

3 課題

今後は、高齢化に伴い心臓・大血管疾患の患者の増加が見込まれ、高齢でリスクの高い患者に対して、単に難しい病気を治すというだけでなく、身体の負担をできるだけ軽減し、その上でさらに効果的な治療を行うという低侵襲医療を目指す時代となっている。

心臓病センターにおいては、平成 30 年 4 月よりハイブリッド手術室が稼働し、TAVI (経カテーテル的大動脈弁置換術) が始まり良好な成績を残している。今後は、僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療である mitral clip (経皮的僧帽弁クリップ術) や左心耳閉鎖デバイス植え込み術なども、ハイブリッド手術室で施行する予定であるが、そのために必要な心エコー専門医の育成などが今後の課題である。アブレーション治療に関しては、周辺病院でもアブレーション治療ができる病院が増えてきており、紹介患者の減少が予測されるため、さらに病診連携を密にして紹介患者を増やせるような努力が必要である。また、アブレーション治療の技術の卓越性をアピールし、さらなる技術の向上を図ってより良い医療を提供し、地域医療に貢献する。

3-2 がんセンター

1 経緯

がんは、昭和56年より死亡原因の第1位となっており、生涯のうち約2人に1人が罹患すると推計されている。こうした背景のもと、「がん対策基本法」に基づく「第3期がん対策推進基本計画」を推進していくため、がん診療体制の一層の整備が求められている。

当院では、平成23年11月に「がんセンター」を開設し、平成27年4月からは「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、地域における中核的な病院として、多職種連携のチーム医療による専門的ながん医療の提供、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者・家族に対する相談支援及び情報提供等を推進している。

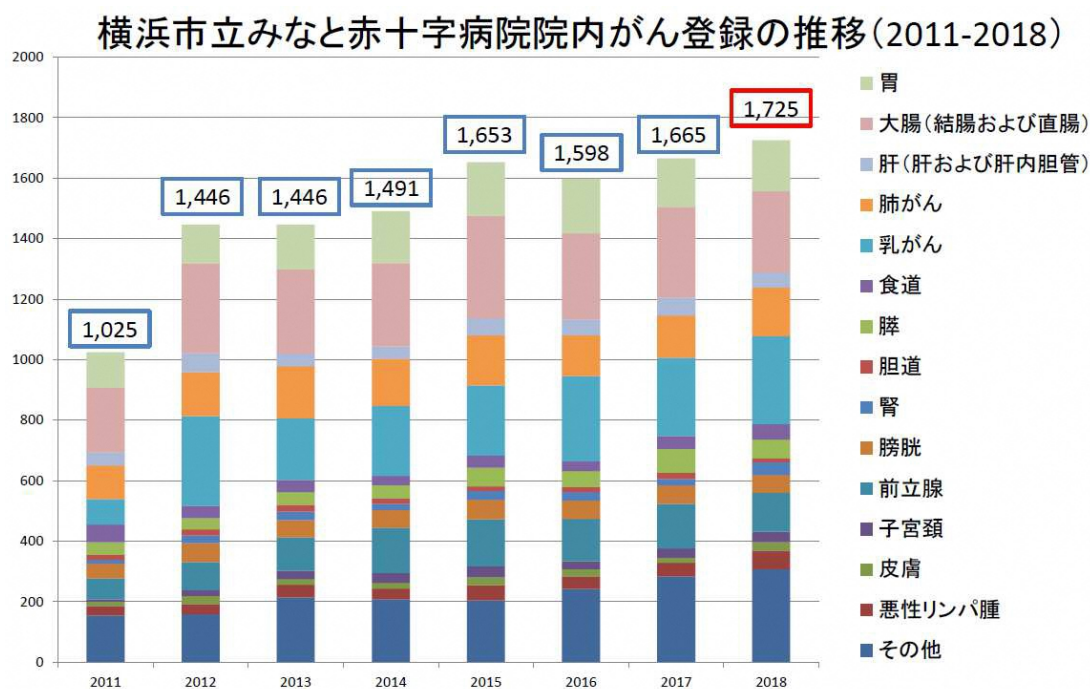
乳がんについては、平成30年2月に「横浜市乳がん連携病院」に指定され、8月には「ブレストセンター」を開設し、患者をトータルでサポートする体制づくりを進めている。

さらに、平成31年3月には「アピアランスケア室」を設置し、がん治療に伴う外見の変化に対する悩みのケアの充実に取り組んでいる。

令和2年1月には、厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」の承認を受けており、今後、がんゲノム医療の提供についても推進していく。

2 データ・成果

<院内がん登録の推移>



<がん関連データ>

平成 30 年 院内がん登録数 (うち、乳がん)	1,725 件 (290 件)
悪性腫瘍の手術件数 (令和元年度)	863 件
平成 30 年 がんに係る薬物療法延べ患者数	1,474 件
放射線治療延べ患者数 (令和元年度)	257 件
緩和ケアチームの新規介入患者数 (令和元年度)	137 件
手術支援ロボット (ダ・ヴィンチ) (令和元年度)	98 件
がん相談支援センター相談件数 (令和元年度)	3,653 件
P E T / C T 検査件数 (令和元年度)	998 件

- ◇ 「地域がん診療連携拠点病院」として、令和元年 9 月 1 日付け現況報告書において指定要件の必須項目を全て充足したことから、令和 2 年 3 月 27 日付けで 3 年間の指定更新が認められた。
- ◇ 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」により、前立腺がん・直腸がん、さらには腎がん・膀胱がんに対する手術を実施し、出血量や術後の痛みが少なく、早期の回復・退院等を可能とする低侵襲技術による診療を推進した。
- ◇ 横浜・川崎がん病病連携会の事務局を務め、学術的テーマからなる医療従事者向けの講演会を開催するほか、市民公開講座にも取り組み、地域医療全体の質の向上及び市民啓発を進めた。
- ◇ 「横浜市乳がん連携病院事業」の一環として、乳がん患者に寄り添い、幅広い支援を提供できる人材“Patients Navigator”の育成計画を策定した。また、当院独自の取組として、患者向け情報提供コンテンツを、ブレストセンターホームページ上に作成、自由な閲覧が可能となるよう、院内にタブレット端末 5 台を設置した。
- ◇ 平成 31 年 3 月に「アピアランスケア室」を設置し、がん治療に伴う外見の変化に対する悩みのケアの充実を進め、令和元年度は 86 件の相談を受け付けた。
- ◇ 令和 2 年 1 月には、厚生労働省から「がんゲノム医療連携病院」の承認を受け、4 月からは「がんゲノム医療拠点病院」である神奈川県立がんセンターと連携・協力して、がんゲノム医療の提供を推進していく。

3 課題

- ◇ 「地域がん診療連携拠点病院」として、関連診療科及び多職種連携のチーム医療による専門的ながん医療の提供を推進していくと同時に、地域のがん診療の連携協力体制の整備、患者への相談支援等を進めていく。
- ◇ がんゲノム医療の推進に向け、院内症例での遺伝子パネル検査の実施及び院外の患者の検査受入体制の整備を図っていく。
- ◇ AYA世代の患者や妊孕性の温存に係る対応について整理のうえ、病院独自の対応マニュアルの策定に着手しており、がん患者のライフステージやニーズに合わせた、きめ細やかな診療体制を目指していく。
- ◇ 乳がん診療については、患者の急激な増加とニーズの拡大に対応するため、診療機材の充実及び医師・看護師の確保が必要となる。
令和2年度は、「横浜市乳がん連携病院」と横浜市医療局と連携して「Patient Navigator 養成講座」を開催し、日常的に乳がん患者をサポートできる看護人材の育成を目指す。

3-3 入退院支援センター

1 データ

<入院前面談業務>

	平成 30 年度	令和元年度
入院前面談実績件数	6,508 件	8,633 件

<算定件数>

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入院時支援加算	0 件	347 件	1,394 件
周術期等口腔機能管理（Ⅰ）手術前	0 件	108 件	127 件
入院個人栄養食事指導件数	1,207 件	1,786 件	1,907 件

<歯科介入件数>

	平成 30 年度	令和元年度
院内歯科への介入件数 （周術期口腔管理）	230 件	369 件
院外歯科への紹介件数	27 件	265 件

2 成果

- 1) 入退院支援センターは、入院前から多職種で関わることで、患者が安心して入院して頂くこと、そして退院後の療養生活にも安心して移行できるように、医療の質の保障や生活の質の向上を目指して平成 30 年 4 月に設立した。
入退院支援センター長、看護師長、専任看護師、担当看護師、担当薬剤師、専任社会福祉士、担当社会福祉士、薬剤師、管理栄養士、事務員が配置され、多職種が連携しすべての入院予約の患者に対し入院前面談を実施している。入院前に、行われる治療の説明、入院前の生活に関する情報収集、持参薬の確認、褥創・栄養・退院が困難な要因のスクリーニングを事前に評価することで、院内の連携、地域の介護・医療関係者とのスムーズな連携に繋がっている。
- 2) 平成 30 年度に周術期等口腔機能管理マニュアルを作成したことで、今年度もがん治療を受ける患者や全身麻酔を受ける心臓血管外科の患者、人工股関節置換術を受ける整形外科の患者に対し、歯科治療や専門的な口腔ケアを提供することが定着できた。
- 3) 横浜市内 22 病院が参加する横浜入退院支援ナースの会に参加し、入退院支援業務に関する意見交換、情報共有などを行い交流を図った。
- 4) 今年度 4 月より予約制を導入、6 月には入退院支援センターの増設を行った

ことで、待ち時間短縮、支援内容の充実を図ることができた。

3 課題

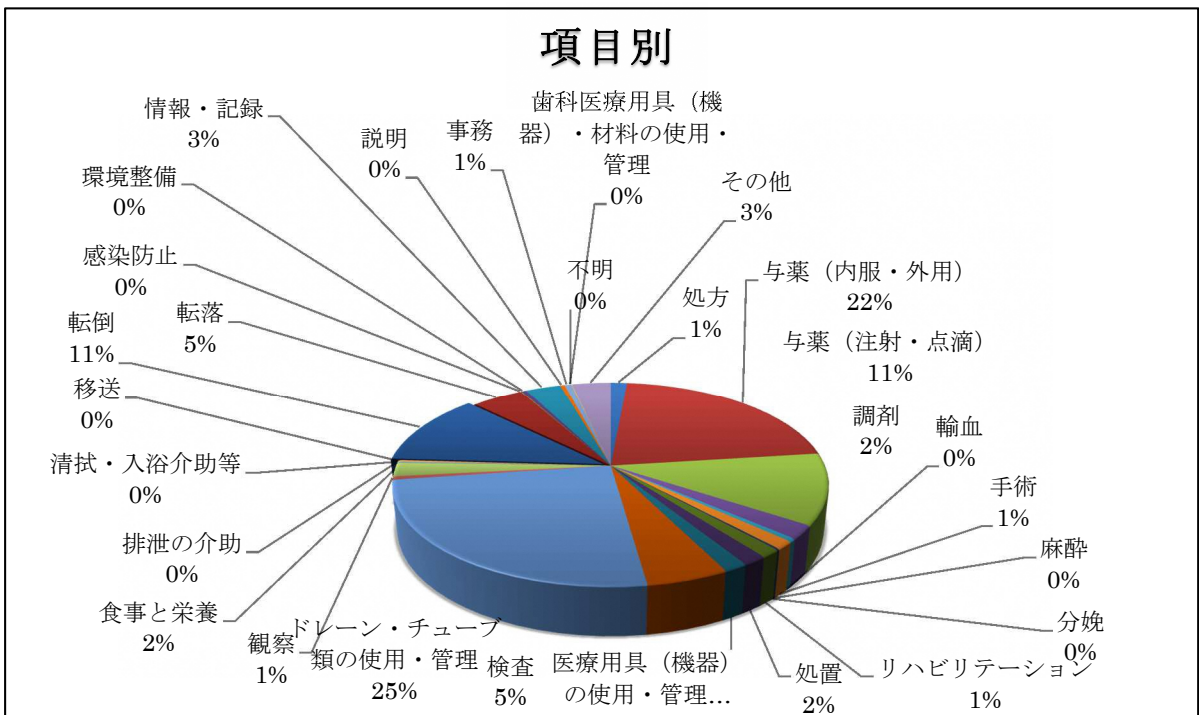
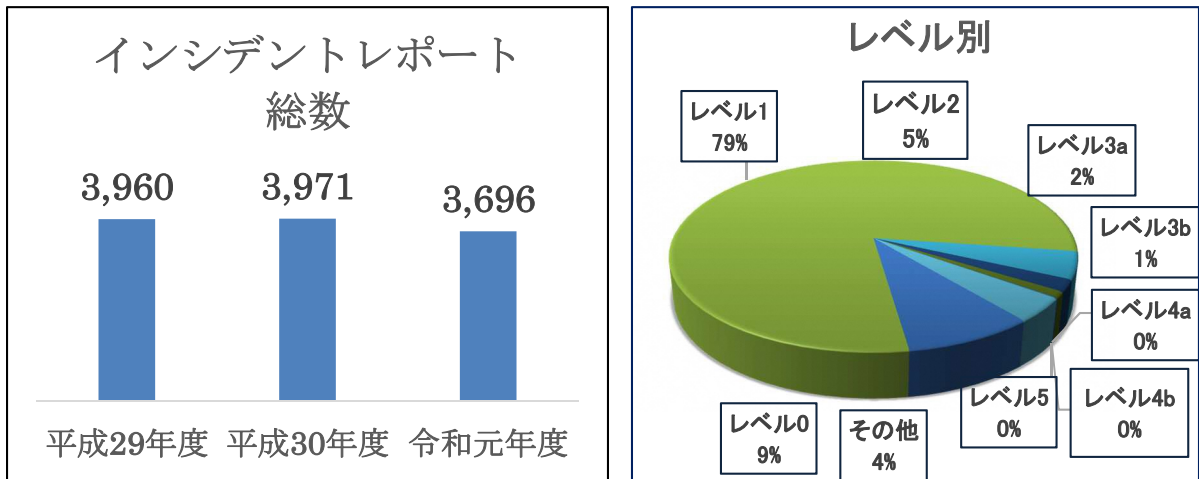
- 1) 入退院支援看護師は、現在行っている入院前の生活情報の収集などを継続していくが、患者の意思決定支援も意図的に行っていくことを目指し、それを病棟看護師と情報共有し、より一層、退院後の療養生活の充実を目指す。
- 2) 入退院支援看護師が、転倒転落やせん妄のリスクをスクリーニングすることで、入院中も安全に過ごせる環境を提供できるよう病棟看護師と連携する。
- 3) 入院前からの栄養指導、または、入院前の情報を元にした入院中の適切な栄養管理ができるよう継続推進していく。
- 4) 入院前面談で退院困難な要因のあった患者に対し、入院後も継続して退院支援を実施していく。

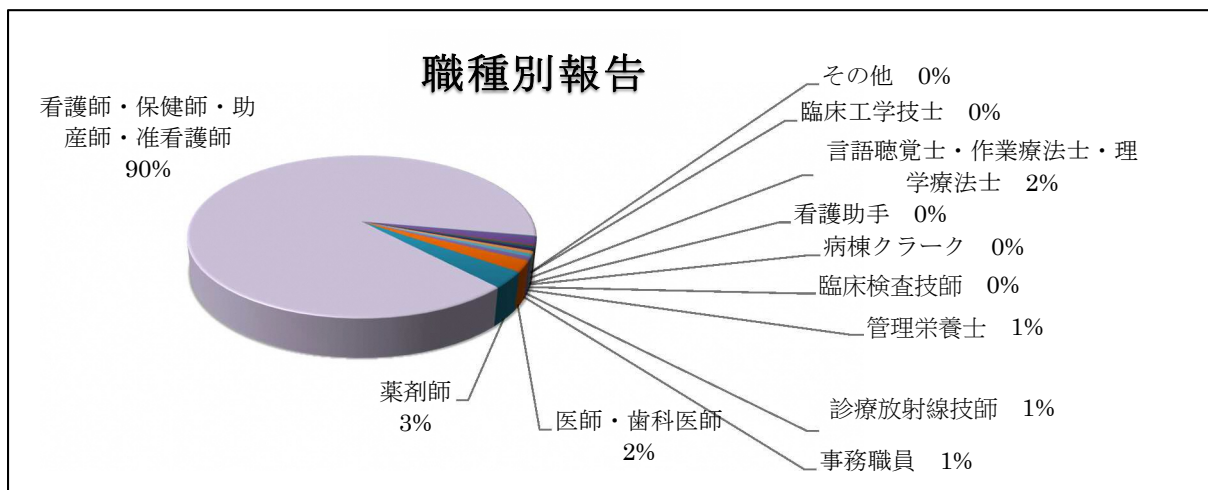
4 地域医療の質の向上に 向けた取組

4-1 医療における安全管理（安全）

1 データ

- ・令和元年度インシデントレポート報告件数は3,696件。
- ・令和元年度全職員対象安全研修会は、第1回は6月、第2回は職種別にe-learningにより、10月から3月にかけて開催した。参加率は、それぞれ86%と90%。
- ・医療職対象医薬品医療機器安全講演会を2月に開催した。出席者は123人。
- ・院内救急サポートチーム（ME S T）と共催し、9月にコードブルーメディカルラリーを開催した。
- ・RM対象の安全研修会を全8回開催した。また、医師対象の安全研修会を開催した。
- ・医療安全管理委員会とRM委員会は、毎月開催した。
- ・RM委員会の中で、医療機器安全管理者や薬剤師によるミニレクチャーを適宜開催した。
- ・院外の安全ニュースを院内発生に関連事例と絡めて委員会で共有した。





・内視鏡検査・治療について

- (1) 令和元年度の重症症例についての報告件数は0件であった。
重症症例については、内視鏡運営委員会において定期的に報告、検討されている。
- (2) 令和元年度研修実績
年度後半に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期した。

2 成果

- (1) 年間報告件数が開院以来、初めて減少した。
- (2) 職員への教育計画を予定通り実施した。
- (3) 安全管理マニュアルを令和2年3月に改訂した。また、ポケットマニュアルを作成した。
- (4) 与薬・転倒転落に関する定期調査を実施した。
- (5) 指さし呼称を推進し、各部署取り組むことができた。
- (6) 安全ラウンドを計画通り実施できた。
- (7) 令和元年8月1日（木）市立3病院医療安全報告会において、安全管理の委員会の活動状況、安全管理研修等の開催状況、インシデント報告の状況等を報告し、共有した。
- (8) せん妄対策講演会を開催した。
- (9) 医師RMを全診療科に配置した。
- (10) 多職種患者誤認対策チームの活動により、事務の業務フローを整備した。
- (11) せん妄対策チームによる医療職対象の研修会を実施した。また、使用が進まなかったアセスメントシートの活用推進と家族へのリーフレットの作成できた。
- (12) 転倒・転落のリーフレットを改訂した。

3 課題

- (1) 転倒・転落対策の推進
- (2) せん妄対策の推進
- (3) 患者誤認防止活動継続
- (4) 講演会への参加率向上
- (5) ポケットマニュアルの活用

4-2 医療における安全管理（感染）

1 データ

- (1) 令和元年度研修会実績
 - ・全職員対象感染講演会は、5月と9月に開催した。参加率はそれぞれ88%と87%。
 - ・みなとセミナー感染講演会を11月に開催した。院外出席者も含め、出席者は66人。

2 成果

- (1) 感染対策マニュアルを令和元年11月に改訂した。
- (2) ICTによる定期的な院内ラウンドを実施し、問題点を現場へフィードバックした。
- (3) サーベイランスによるアウトブレイクの特定制
 - ・BSIサーベイランス、SSIサーベイランス継続。MRSA検出患者サーベイランス継続。JANISサーベイランス検査部門継続。
 - 特定病棟での耐性菌検出時に対してはラウンド等行い接触感染防止策の再確認を行った。サーベイランスではアウトブレイクは特定されなかった。
- (4) 抗生物質の適正使用
AST（抗菌薬適正使用支援チーム）活動の、院内採用抗菌薬の見直しと適正使用の推進により、採用抗菌薬を削減できた。
- (5) 感染事例への具体的な対応・指示を図った。
- (6) 感染防止対策加算1に則り他施設とのカンファレンスを4回開催した。感染対策地域連携加算に則り他施設と相互ラウンドを実施した。他病院の感染防止対策活動の一端を知る良い機会となった。
- (7) 麻しん対策として職員の抗体価の確認とワクチン接種推奨により、正規職員の90%以上が抗体を取得できた。また、マニュアルの見直しを行った。
- (8) 新型コロナウイルス感染症患者の受入れを、マニュアルを整備しながら行った。
- (9) 厚生労働省感染症発生動向調査事業における疑似症定点医療機関の指定に向けてマニュアルの見直しを行った。

3 課題

- (1) 標準予防策・感染経路別予防策の徹底
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策
- (3) 抗菌薬の適正使用の推進
- (4) 針刺し防止：安全機能付き器具の適正使用推進
- (5) 地域連携への取組
- (6) 流行性ウイルス疾患抗体価が基準に満たない職員のワクチン接種の推奨
- (7) サーベイランスによるアウトブレイクの特定制：BSI、SSI、MRSA、JANIS

4-3 医療倫理に基づく医療の提供

1 データ

平成 29 年度・平成 30 年度 医療倫理委員会実績

	平成 29 年度	平成 30 年度
承認件数	71 件	86 件
開催回数 開催日等 (参加人数)	第 1 回 5 月 12 日 (9 人) 第 2 回 7 月 14 日 (10 人) 第 3 回 9 月 15 日 (8 人) 第 4 回 11 月 14～22 日 (文書) 【臨時】 12 月 7 日 (8 人) 第 5 回 1 月 12 日 (8 人) 【臨時】 3 月 6～8 日 (文書) 第 6 回 3 月 5～13 日 (文書)	第 1 回 5 月 10～21 日 (文書) 【臨時】 6 月 27 日 (7 人) 第 2 回 7 月 13 日 (8 人) 第 3 回 8 月 27 日～9 月 7 日 (文書) 第 4 回 11 月 9～22 日 (文書) 第 5 回 1 月 15～24 日 (文書) 第 6 回 3 月 29 日 (8 人)

令和元年度医療倫理委員会実績 承認件数 64 件

開催日 (参加人数)	議題	結果
5 月 27 日～ 6 月 4 日 (文書審議)	(1) 当院における大腸憩室出血に対する血管内治療の有用性の検討	承認
	(2) 造影 CT の血管外漏出像は、大腸憩室出血の治療方針決定に有効な所見か	承認
	(3) 出血性十二指腸潰瘍における内視鏡止血困難例の予測因子として、Glasgow Blatchford Score の有用性の検討	承認
	(4) 心臓アブレーションの消化管に及ぼす影響のまとめ	承認
	(5) 当院における出血性胃潰瘍の内視鏡的止血術と血管内治療の比較・検討	承認
	(6) 当院における急性胆嚢炎の治療の現況と死亡例の検討	承認
	(7) 当院 ICU における管理栄養士配置の効果 -単施設前後比較研究-	承認
	(8) クライオバルーンを用いた心房細動アブレーションによる消化管蠕動運動への影響に関する検討	承認
	(9) HCU における ICDSC と CAM-ICU の整合性及び乖離原因調査、評価者側要因の是正	承認
	(10) 看護師の呼吸回数測定率向上に対する取り組みの成果	承認

	(11) SGA 実施後 NST 介入に至らなかった患者から考える、看護師に必要な栄養アセスメントの視点とは	承認
	(12) 乳腺外科外来における就労支援の現状と課題	承認
	(13) 当健診センターにおけるがん症例の分析	承認
	(14) 運動機能障害の原疾患が複数合併してしないか検討する	承認
	(15) 第 2 回 Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症の全国調査	承認
	(16) 小児個別ぜん息における患児の背景とコントロール評価	承認
	(17) 日本集中治療医学会データベースおよび DPC データを用いた診療の質指標測定検証研究	承認
	(18) 脊椎手術における椎弓根スクリュー挿入精度の検討	承認
	(19) アルコール性ケトアシドーシスの臨床的特徴、院内死亡に関する単施設後向き観察研究	承認
開催日 (参加人数)	議題	結果
7月12日 (10人)	(20) 日本 IVR 学会 症例登録データベース事業	承認
	(21) 内腸骨動脈瘤破裂・総腸骨動脈瘤破裂・腹部大動脈瘤破裂の疫学に関する多施設共同研究	承認
	(22) 食物アレルギーにおける急速経口免疫療法の有効性と安全性	承認
	(23) 日本呼吸器学会が提唱する ACO 診断基準に基づく COPD の特徴に該当する経過観察中または新規の外来患者における喘息と COPD のオーバーラップに関する前向きコホート研究：ACO Registry	承認
	(24) 肺非結核性抗酸菌症合併関節リウマチ患者に対する免疫抑制治療が患者予後に与える影響に関する観察研究	承認
	(25) 抗血栓療法継続下症例の前方到達法による鼠径部ヘルニア手術の安全性の検討	承認
	(26) 外来化学療法診察前の看護師による問診の有用性～患者が求める問診内容の検討～	承認
	(27) mFOLFOX6 と XELOX による血小板減少の差異と XELOX にベバシズマブを上乗せすることによる血小板減少の差異についての後方視的観察研究	承認

	(28) ローリスク妊婦における分娩時予防的オキシトシン投与の有効性についての検討	承認
	(29) 日本集中治療医学会主催の ICU 入室患者登録システム事業への参画	承認
	(30) 「RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI セツキシマブと FOLFOXIRI ベバシズマブの最大腫瘍縮小率 (DpR) を検討する無作為化第 II 相臨床試験」におけるバイオマーカー研究 (JACCRO CC13AR)	承認
開催日	議題	結果
9 月 13 日 (8 人)	(31) 文書管理に関する意識調査	承認
	(32) 原発性肝がんに関連する疾患、治療データベース構築のための多施設レジストリ研究	承認
	(33) 当院において 2 次治療以降で免疫チェックポイント阻害薬を使用した症例の検討	承認
	(34) 腹膜透析用カテーテル留置術後の転帰に関する多施設共同前向き観察研究	承認
	(35) 当健診センターにおける胃がん症例の分析	承認
	(36) 1 型糖尿病に対する SGLT-2 阻害薬の効果の検討	承認
	(37) 日本呼吸器学会が提唱する ACO 診断基準に基づく COPD の特徴に該当する経過観察中または新規の外来患者における喘息と COPD のオーバーラップに関する前向きコホート研究: ACO Registry	承認
	(38) 領域選択シミングと banding artifact の関係性の検討と肝臓検査への応用	承認
	(39) 心房細動アブレーションの麻酔管理におけるプロポフォールの有用性	承認
	(40) 日本におけるノカルジア症の臨床疫学と感受性に関する後方視点的研究	承認
開催日	議題	結果
11 月 8 日 (9 人)	(41) B 細胞性リンパ腫へのリツキシマブバイオ後発品の短期間使用成績	承認
	(42) 心臓手術後の血圧管理に関する多施設レジストリ	承認
	(43) Cryo AF グローバルレジストリ研究	承認
	(44) 前立腺がん疑いで前立腺生検を受けた症例の後ろ向き研究	承認
	(45) 直腸癌治療における側方郭清に関する多施設前向き観察研究	承認

	(46) A prospective cohort study to assess obstructive respiratory disease phenotypes and endotypes in Japan (the TRAIT study). 日本における閉塞性肺疾患のフェノタイプ及びエンドタイプを評価することを目的とした前向きコホート研究 (the TRAIT study)	承認
	(47) 複数生物学的製剤使用環境下における重症喘息前向きコホート研究 PROSPECT 研究	承認
	(48) 入退院支援センター業務の評価	承認
	(49) 化学療法施行患者の B 型肝炎ウイルス再活性化対策の状況と問題点	承認
	(50) 心房細動患者における、左心耳内血栓評価に対する腹臥位造影 CT 遅延相の有用性の検討	承認
	(51) 左房天蓋部の線状アブレーションにおける高周波電気焼灼術とクライオバルーン (冷凍凝固バルーン) アブレーションの有効性と安全性の比較	承認
	(52) クライオバルーンによる心房細動アブレーションの有効性および安全性の検討	承認
	(53) クライオバルーンを用いた心房細動アブレーションによる消化管蠕動運動への影響に関する検討	承認
開催日	議題	結果
1 月 20～31 日 (文書審議)	(54) ステロイド性骨粗鬆症の一次予防に対するテリパラチド週 1 回製剤の有効性の検討 (post hoc 解析)	承認
	(55) バラ科 PFAS 患者における感作状況の検討	承認
	(56) 悪性リンパ腫の予後に関する多施設共同後方視的研究	承認
	(57) 薬剤師による持参薬鑑定と病棟での簡易血糖測定依頼により持効型インスリン大量投与が判明した 1 例	承認
	(58) 腰部外傷後に大動脈の血栓が遊離し右下肢動脈閉塞症を来した一例	承認
	(59) 胆嚢腺筋腫症は単なる良性疾患なのか?～胆嚢腺筋腫症と脂肪肝および生活習慣病関連因子との関連～	承認
	(60) 日本整形外科学会症例レジストリー (JOANR) 構築に関する研究	承認
	(61) 腋窩-大腿動脈バイパス術の検討	承認
	(62) 肩腱板断裂術後患者における身体部位の認知活動の経時的変化	承認
	(63) A prospective cohort study to assess obstructive	承認

	respiratory disease phenotypes and endotypes in Japan (the TRAIT study). 日本における閉塞性肺疾患のフェノタイプ及びエンドタイプを評価することを目的とした前向きコホート研究 (the TRAIT study)	
	(64) 複数生物学的製剤使用環境下における重症喘息前向きコホート研究	承認

2 成果

- ・計画どおり2か月に1回開催した。
- ・前年度に引き続き、自主臨床研究審査委員会からの申請が全て報告事項であった場合、メールによる文書審議の形で開催した。
- ・臨床研究法及び院内手順に則り、実施施設にて必要な院長の承認及び報告手続きを行い、管理者・医療倫理委員会それぞれへ報告した。

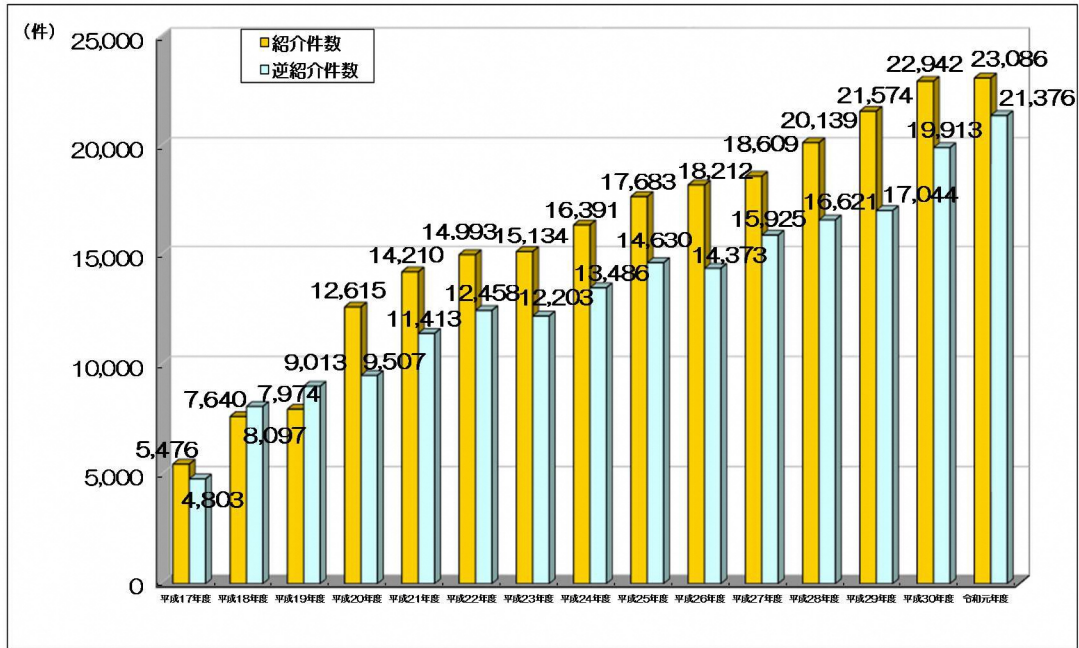
3 課題

- ・当院で新たに実施する臨床研究法に則った特定臨床研究の様式整備・具体的な手順書の作成を行う必要がある。
- ・自主臨床研究審査委員会にて承認され医療倫理委員会へ報告となる研究において、承認通知書を申請者へ発行するタイミング及び研究開始可能日について、手順を整え明文化する必要がある。

4-4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）

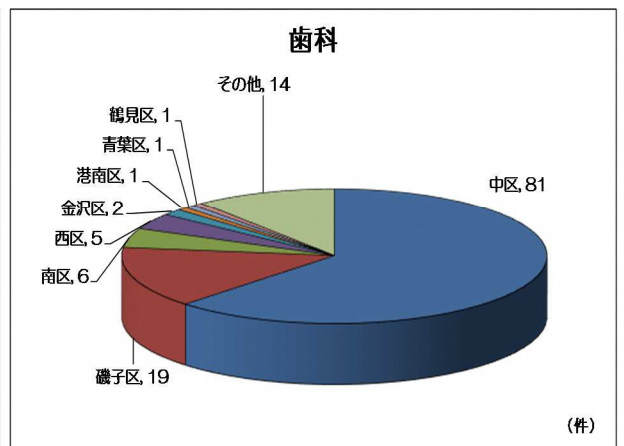
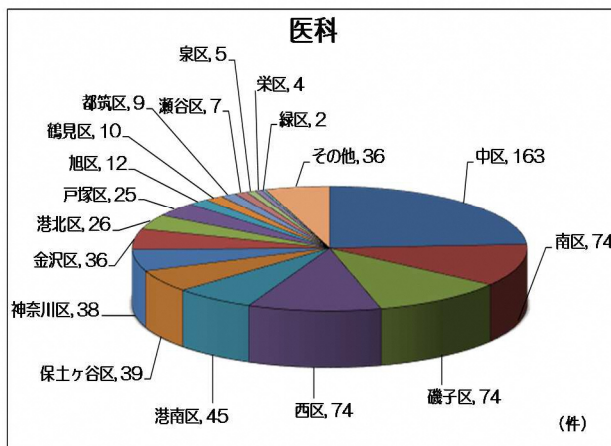
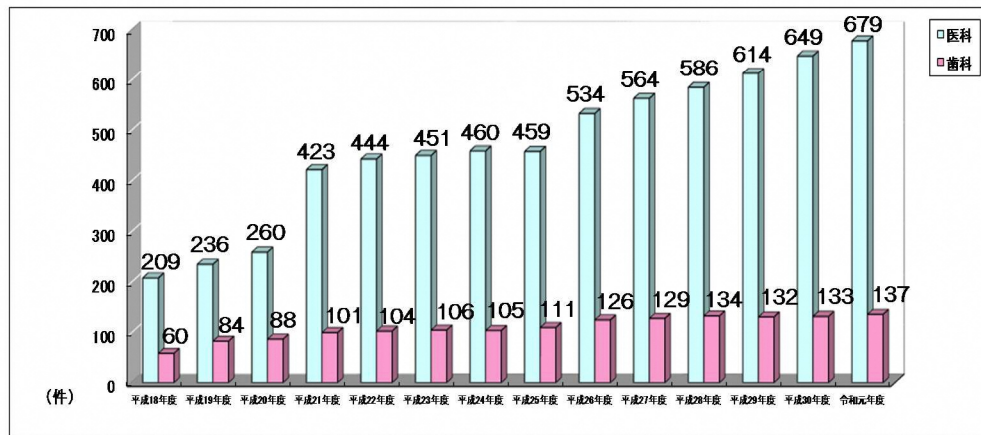
1 データ

紹介件数・逆紹介件数年度推移

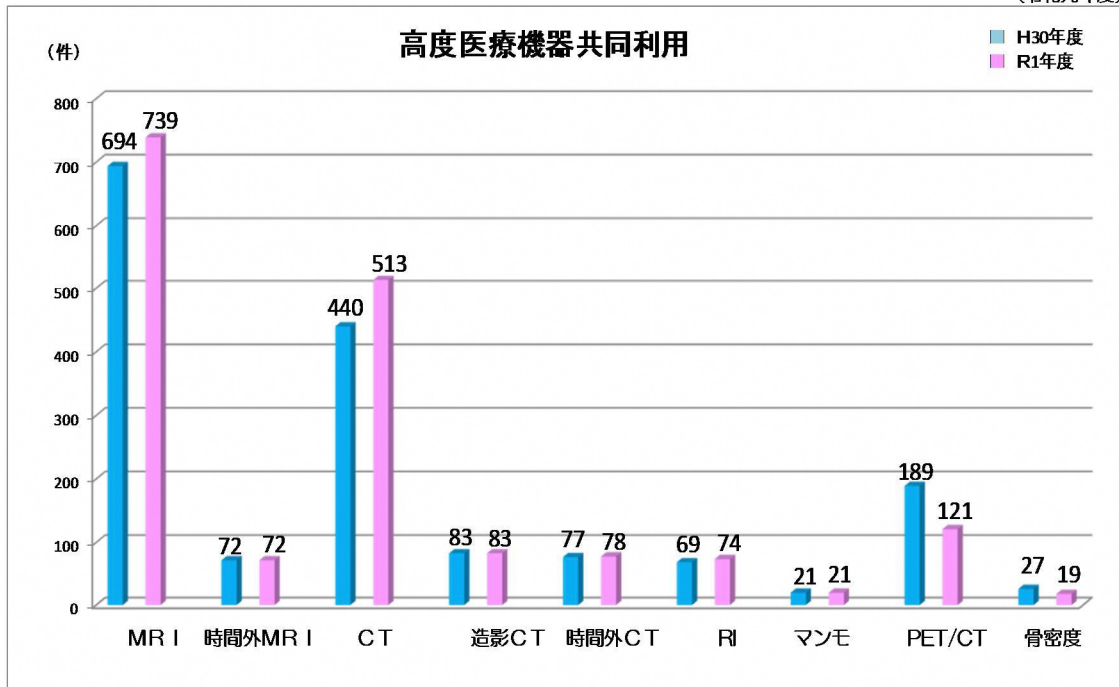


登録医登録状況

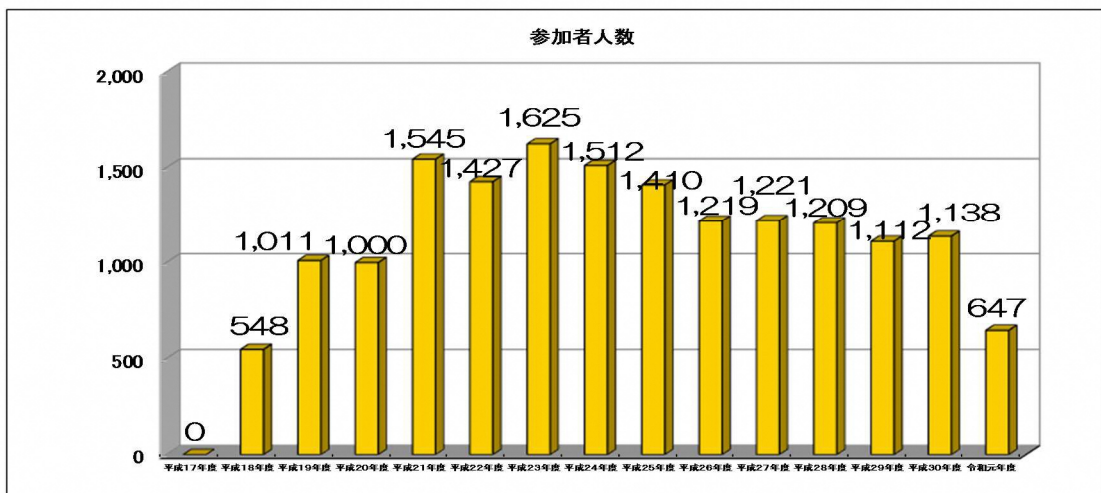
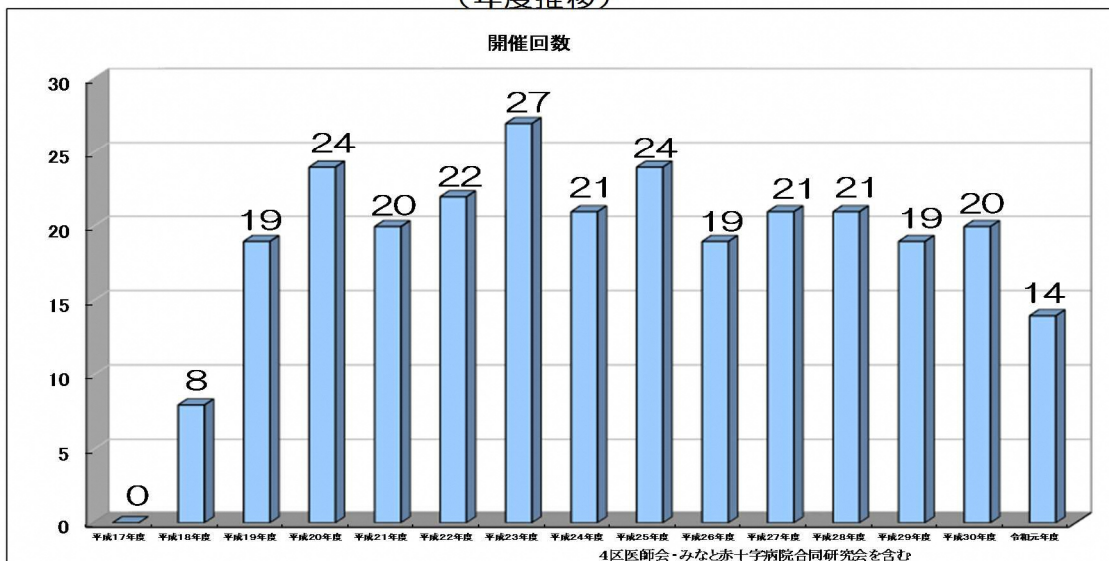
(令和2年3月末日時点)



(令和元年度)



地域の医療従事者に対する研修実施状況 (年度推移)



2 成果

医療連携課は、医療連携センターの入口業務を担う部署であり、地域医療機関の窓口として「顔の見える連携」を心がけている。

地域の医療機関との医療機能の分担と連携を強化し、紹介・逆紹介の向上に努めた。

さらに、地域医療支援病院として、地域の医療従事者に対する研修を14回開催し、647名の参加があり、地域医療の質向上を図った。

3 課題

今後も、地域との医療機能の分担と連携を強化し、病院の運営方針である「逆紹介」を積極的に推進する。

また、地域包括ケアの推進に向け、地域との連携を一層強化する。

4-5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

1 データ

<相談室業務>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
相談件数	6,536件	6,909件	8,910件
がん相談件数	2,372件	2,253件	3,631件

<算定件数>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入退院支援加算	3,696件	4,122件	5,790件
介護支援連携指導料	440件	578件	573件
退院時共同指導料2	148件	198件	223件
多機関共同指導加算	7件	52件	72件
大腿骨頸部骨折パス	48件	27件	37件
脳卒中パス	58件	47件	45件

<地域連携会議>

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
横浜脳卒中地域連携懇話会	第1回 2月21日	第1回 2月7日	第1回 2月13日
横浜脳卒中リハ連携研究会	第1回 7月5日 第2回 12月6日	第1回 7月4日 第2回 11月21日	第1回 7月10日 第2回 12月4日
神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会セミナー	第1回 9月9日	第1回 9月8日	第1回 1月29日
大腿骨頸部骨折地域連携パス合同委員会	第1回 7月31日 第2回 2月26日	第1回 8月6日 第2回 2月25日	第1回 7月8日

<療養・福祉相談室 主催/共催研修>

11月28日	「退院後の残された時間の過ごし方～その人らしい生活の実現を目指して～」の開催について（伺い）	主催
10月9日	栄養って何？	かいごのWa!なかケアマネ部会
1月22日	地域向け医療講座～知って得する医療知識「泌尿器疾患」について	今井地域ケアプラザ
3月12日	磯子中央病院地域医療講演会	磯子中央病院
2月26日	高齢者の腹膜還流療法と地域連携 part 2～災害時の対応と在宅療養の実際～	横浜中央病院

2 成果

(1) 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

(2) 地域関係機関との取組（資料②）

- 1) 病院への訪問、行政機関や在宅介護関係機関の会合、中区区レベル地域ケア会議、「かいごのWA！なか」の会合、横浜市退院支援看護師の会への参加など、在宅療養支援に関する情報交換及び情報の共有を図った。
- 2) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステム実務者会議や障害者自立支援協議会への参加、中区3障害一体サービス提供施設運営委員会など、障害児者に関する活動を実施した。横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムでは行政を通して24件の相談があり、19件受入れを行った。
- 3) 全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会や医療協ソーシャルワーカー会などの委員会に参加した。
- 4) 精神科医療に関する活動として、合併症受入病院連絡会や精神保健業務連絡会、医事担当者会議等の参加し、必要な情報収集、受入病院としての提言をした。また、精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、外部研修で四縣市、他医療機関との連携を図った。
- 5) 神奈川脳卒中広域シームレス医療研究会、横浜脳卒中地域連携懇話会、横浜脳卒中・リハ連携研究会（Y-CIRCLE）に参加し、大腿骨頸部骨折パス合同委員会は当院で開催した。
- 6) 横浜市歯科医師会と連携し、入退院支援センターにおいて昨年より開始している周術期口腔機能管理の定着をはかった。また、地域の歯科医が参加する退院カンファレンスの実施を強化し、在宅医科歯科連携の推進を図った。
- 7) 横浜市リハビリテーション事業団とALS患者支援に関する連携を強化し、MSWが病院と地域を結ぶコーディネートの役割を担った。
- 8) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part13」を開催した。
- 9) 横浜市児童虐待防止医療ネットワークに毎年3回参加し、市内小児救急病棟と児童虐待防止に向けた取り組みについて情報交換を行った。
- 10) 院内の多職種チーム（NST・ブレストセンター・緩和ケアチーム・腎チームなど）の活動を、地域の介護・医療関係者に紹介し、研修会などに参加した。

(3) 専門職育成への取組

院外からは、14名の看護学生、3名の社会福祉学生の実習、1名の精神保健福祉学生の実習、神奈川県看護協会2名、院内は看護部からクリニカルラダー「退院支援コース」の研修者を17名受け入れた。

(4) 専門職としての研鑽

神奈川県看護協会、医療協、神奈川県MSW協会、神奈川県PSW協会やその他自治体主催による各種研修を積極的に受講し、有資格者としての自己研鑽を図った。また、資格の専門性を生かし幅広い活動を通して業務に反映させた。

- 1) がん相談支援センター相談員研修の(1)(2)を2名、(3)を1名が受講している。また、2名が認定がん専門相談員の資格を有し、継続学習をしている。
- 2) 災害関連としてDMAT・DPATの要員に必要な研修に参加した。
- 3) 医療対話推進者養成研修に1名が参加し、受講修了者は計4名となった。

3 課題

- (1) 入退院支援センターで実施する支援の質向上を目指し、より早期から必要な情報提供や療養支援が実施できる体制を構築する。
- (2) 入退院支援マニュアルに沿った療養支援を病院全体で推進し、老いや病気を抱えた患者や家族に対し、包括的な支援を実施していく。また、病院と在宅チームとで退院後の患者の状態を共有する、退院支援を病院と地域で評価する仕組みを地域の関係者と共に作る退院支援体制の構築を目指していく。
- (3) 大腿骨頸部骨折地域連携パス／脳卒中地域連携パスについて運用の見直しを検討し、引き続き院内外の連携を深め、円滑な運用を進める。
- (4) 政策医療の一つでもある精神科救急医療／身体合併症システムの円滑な運用に向け、院内外との連携を深める。
- (5) みなとセミナー「よりよい在宅療養支援をめざして part14」を実施する。
- (6) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を強化していく。
- (7) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携を進める。
- (8) 各区医師会 在宅医療連携室との連携を推進していく。
- (9) 中区地域包括ケア指針におけるアドバンスト・ケア・プランニングや緩和ケアの推進に向けた取組を医師会、歯科医師会、薬剤師会、行政、病院、地域の介護・医療関係者などと実施する。
- (10) 看護師の同行訪問や退院後訪問を推進し、地域とともに在宅療養の支援を行う。

医療社会事業課 令和元年度報告書

令和元年度分
横浜市立みなと赤十字病院

(1)取扱人数

区分	人数
年度実人数	8,910 人
年度延人数	47,517 人

区分	実人数	
新規介入ケース	入院	5,036 人
	外来、その他	3,705 人
終了ケース	8,751 人	

精神科入院相談件数		件数
がん相談	実件数	3,631 件
	延べ件数	10,360 件
	(対面)	4,641 件
	(電話)	3,205 件
	(その他)	2,514 件

*算定

入退院支援加算1(600点)	5,790 件
入院時支援加算(200点)	1,394 件
介護支援連携指導料(400点)	573 件
退院時共同指導料2(400点)	223 件
多機関共同指導加算(2000点)	72 件
保険医共同指導加算(300点)	4 件
小児加算(入院時支援加算)(800点)	235 件
精神科退院指導料(320点)	79 件

*地域連携パス実施状況

大腿骨頸部骨折パス	37 件
脳卒中パス	45 件

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医療職Ⅰ	1,622 件
医療職Ⅱ	4 件
医療職Ⅲ	3,736 件
一般職Ⅰ	46 件
一般職Ⅱ	3 件
本人	483 件
家族・親戚縁者	318 件
院外関係者	1,537 件
近隣者・知人	0 件
ソーシャルワーカー	992 件
合計	8,741 件

(3)取扱内容

区分	実件数
家族関係の問題	44 件
介護・療養生活上の問題	3,462 件
経済に関する問題	372 件
日常生活上の問題	264 件
就労・職場の問題	40 件
教育の問題	0 件
医療の確保に関する問題	2,174 件
人権に関わる問題	132 件
心理・情緒的問題	240 件
制度活用に関する問題	3,169 件
その他	668 件
合計	10,565 件

(4)援助方法

方法		延件数
面接	本人	14,018 件
	家族等	6,053 件
電話	本人	268 件
	家族等	6,039 件
訪問	本人	157 件
	家族等	71 件
同行・同伴・代行		15 件
文書(電子メール、FAX含む)		3,036 件
情報収集		32,963 件
院内協議・院内カンファレンス		30,901 件
院外協議・院外カンファレンス		20,651 件
合同カンファレンス		706 件
その他		16 件
合計		114,894 件

(5)相談援助調整内容

内容	延人数
家族関係に関すること	2,580 件
在宅介護に関すること	19,731 件
療養生活に関すること	24,489 件
経済的問題に関すること	3,379 件
就労・職場環境に関すること	344 件
就学・教育環境に関すること	26 件
虐待・暴力・人権に関すること	444 件
受診・受療に関すること	3,578 件
転院に関すること(医療機関)	12,404 件
他施設利用に関すること	3,477 件
心理・情緒的問題に関すること	1,237 件
他福祉関係法に関すること	2,105 件
高額療養費に関すること	281 件
その他	2,186 件
合計	76,261 件

(6)転帰先

区分	実件数
回復期リハビリテーション病院	272 件
一般病院	245 件
包括ケア	70 件
療養型病院	44 件
精神病院	134 件
介護老人保健施設	62 件
特別養護老人ホーム	62 件
有料老人ホーム	223 件
グループホーム	25 件
緩和	23 件
在宅	2,961 件
死亡	176 件

(7)その他

苦情	8 件
----	-----

①地域連携分野

内容	回数
中区介護保険認定調査	16
かいごのWa! なか	4
中区 区レベル地域ケア会議	3
横浜入退院支援ナースの会	3
横浜市児童虐待防止医療ネットワーク	3
神奈川県がん診療連携協議会 相談支援部会	3
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会 広報ワーキング	2
がん診療医科歯科連携検討委員会	1
横浜市重症心身障害児者メディカルショートシステム実務者会議	2
メディカルショートステイ施設見学会	1
多職種による事例検討会	3
横浜脳卒中・リハ連携研究会(Y-CIRCLE)	2
中区要保護児童対策連絡会	1
民生委員ケアマネージャー交流会	1
中区障害者地域活動ホーム・中区生活支援センター運営委員会	1
介護・医療連携推進会議	1
横浜脳卒中地域連携懇話会	1
精神科救急身体合併症転院事業受入病院連絡会	1
西区他職種間連携会議	1
第30回 全国福祉医療施設大会	1
中区精神保健福祉連絡会	1
神奈川区意見・情報交換会	1
養子縁組民間あっせん期間助成事業連絡会議	1
磯子区地域看護連絡会	1
中区障害者施設等実務者連絡会	1
日本乳癌学会学術集会	1
けいゆう病院地域医療連携懇談会	1
中区在宅医療連携拠点事業研修会	1
県難病医療支援病院向け説明会	1
医療病院管理研究協会 医療経営専攻課程Bコース	1
在宅医療と後方支援病院のあり方を考える会	1
横浜鶴見リハビリテーション病院 見学	1
横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 見学	2
地域支援者向け研修会	1
JMIP見学	1
ハイリスク妊婦連携に向けての打ち合わせ	3
聖隷横浜病院 見学	1
第4期中区地域福祉保健計画策定に関するグループインタビュー	1
済生会横浜市東部病院 見学	1
泌尿器疾患講座	1
第60回地域中核病院担当者会議	1
地域医療連携室、ケアマネ、在宅医療相談室、在宅歯科医療相談室の交流会	1

内容	回数
新春講演会 シンポジウム	1
がんゲノム医療ワーキング連携病院の体制整備に向けた見学	1

②研修・勉強会

内容	回数
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 中堅者研修会	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 初任者研修会	1
がん相談支援センター相談員基礎研修(3)	1
第2回 地域と医療機関を繋ぐ人材育成研修	3
令和元年度 新規採用職員基礎研修会 I	1
令和元年度 新卒入職者宿泊研修	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会総会及び研修会	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 関東ブロック研修会	1
赤十字中堅職員研修	1
赤十字社医学会総会	1
赤十字救護班主事研修会BASIC	1
新規採用職員 1年目フォロー研修会	1
クレーム対応研修	1
日赤東部ブロック医療連携実務研究会	1
外国人支援のために知っておきたいこと	1
コミュニケーション研修	1
患者の意向を尊重した意思決定支援のための研修会 相談員研修	1
地域相談支援フォーラム がん相談員研修	1
2019年度病院管理研修	2
エルネック研修	1
在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修	1
日本赤十字社臨床倫理と医療対話の研修会	2

③その他

内容	回数
患者同行	5
精神保健福祉法 法定書類届け出	2

4-6 市民委員会

1 データ

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
開催日 (出席人数)	平成 30 年 3 月 1 日 (7 名)	平成 31 年 2 月 26 日 (7 名)	令和 2 年 3 月 6 日～ 19 日 (文書審議)

	委員氏名	役 職
1	行天 良雄	医事評論家
2	荻野 安奈	作家 慶應義塾大学文学部教授
3	三角 隆彦	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院院長
4	秋山 修一	横浜市中区医師会 会長
5	玉村 和己	日本発条株式会社 代表取締役会長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	横浜市磯子区医師会訪問看護ステーション管理者
8	平山 正晴	横浜市中区連合町内会長連絡協議会 会長
9	田島 真也	横浜みなと赤十字病院奉仕団 団員

2 成果

令和元年度市民委員会は、令和 2 年 3 月 2 日に開催予定であったが、2 月 25 日に国が発表した「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」によるイベント等の自粛要請を受けて、文書審議による書面開催に変更した。

報告内容は以下のとおりである。

- ・横浜市立みなと赤十字病院の現況
- ・心臓血管外科の取り組み～TAVIの開始～について
- ・JMIP受審の取り組みについて
- ・台風 15 号救護班派遣について

当院の運営に対し有識者から意見をお聞きし、上記各報告についてだけでなく、その他当院の様々な問題点についてもご指摘をいただく場となっている。

3 課題

委員の方からご意見をいただいた場合に、担当部署が責任をもって改善に向けた行動に繋げることが必要である。

4-7 治験・受託研究

1 データ

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
治験実施件数	35 件	29 件	26 件
自主臨床試験件数	79 件	112 件*	243 件
製造販売後調査件数	58 件	58 件	45 件

*平成 30 年度より集計方法を変更したことにより、見かけ上、大幅に報告件数が増加している。

2 成果

【自主臨床研究】

研究者からの要望を受けて、多施設共同試験においては中央の倫理委員会での審査を可能とする手順を整えた。さらに、情報提供のみ対応する調査等において、当院の担当者は研究者には該当しない場合は審査不要とし、申請手続きを簡略化する手順を整えた。また、当院の委員会審査となる研究においては、様式の見直しを行い必要事項が適切に記載できる内容に改善を行った。

研究の実施支援においては、治験コーディネーター（CRC）の委受託契約を締結し、自主臨床研究においても必要時はCRC支援が受けられる体制を整え支援を開始した。

【教育・研修】

外部講師によるセミナーは、初回研修セミナーとして全2回（5月「臨床研究の質向上のための倫理指針の解釈と運用～研究倫理から研究計画立案まで～」、6月「研究計画の立て方（続き）～臨床研究法と利益相反～」）開催し、さらにそれぞれ3回のビデオ補講を行い、延べ79名の参加があった。継続研修セミナーとして2回（10月「SDM〈Shared Decision Making〉とは何か？～EBM・診療ガイドラインを問い直す～」、1月「医療におけるAIの現状と可能性」）開催した。10月の継続研修セミナーについては、ビデオ補講を行った。参加人数はそれぞれ45名（ビデオ補講含む）と38名であった。

【治験】

治験審査委員会の開催回数は11回であった。令和2年3月に新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため休会した以外は、毎月1回開催した。3月の休会を踏まえ、Web会議の手順を整え、令和2年4月よりWeb会議の開催が可能となった。

また、1試験で独立行政法人医薬品医療機器総合機構による実地調査が行われ、特記すべき指摘事項はなかった。

令和元年度新規治験受託件数は7試験であり、このうち1試験は横浜臨床研究ネットワーク経由で初めて受託した治験であった。新規受託治験の内訳は下記のとおりである。

- ・透析導入前の腎性貧血患者を対象とした長期投与試験 1 件
- ・耳漏を有する中耳炎患者を対象にした第Ⅲ相臨床試験 1 件
- ・慢性咳嗽を有する被験者における無作為化、二重盲検の第Ⅲ相試験 1 件
- ・活動性関節リウマチ患者を対象とした実薬対照、無作為化試験、及びそれに続く長期安全性を評価する非盲検、単群、継続投与試験 1 件
- ・成人アトピー性皮膚炎患者を対象とした第 I/II 相試験 1 件
- ・活動性関節リウマチ患者を対象とした第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、二重盲検試験 1 件
- ・難治性慢性咳嗽患者を対象とした後期第 2 相多施設共同無作為化二重盲検プラセボ対照試験 1 件

3 課題

【自主臨床研究】

- ・整備途中である臨床研究法へ対応した手順書及び様式を整え、体制を構築する。
- ・臨床研究の院内規定及びデータ管理体制について研究者への周知を図る。
- ・利益相反に関する規定の作成及び様式の改定に向けて、院内の調整を図り検討を進める。

【治験】

- ・治験管理システムをさらに活用し、i P a d を利用した委員会審議を実施できるよう手順書及び環境等の整備を進める。
- ・治験受託件数の増加に向けて、改善点を検討し対応を図る。

4-8 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 安全講習会開催実績

(1) 赤十字救急法短期講習会

平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
5月17日	30名	5月16日	7名	5月15日	9名
6月28日	7名	7月19日	11名	7月18日	4名
7月20日	8名	9月21日	8名	9月20日	5名
9月15日	4名	11月12日	4名	11月14日	4名
10月28日	3名	11月20日	8名	1月16日	5名
11月20日	11名	11月20日	6名		
11月28日	16名	1月16日	5名		
12月20日	10名				
8回	89名	7回	49名	5回	27名

(2) 赤十字救急法救急員養成講習会

平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
3月27日 ~29日	36名	開催なし		12月3日 ~5日	10名
1回	36名			1回	10名

(3) 赤十字健康生活支援講習会（短期講習会）

平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
8月2日	12名	7月4日	39名	7月5日	37名
10月16日	42名	8月3日	15名	8月2日	15名
3月6日	15名				
3月9日	15名				
4回	84名	2回	54名	2回	52名

(4) 水上安全法講習会（市内小学校の着衣泳短期講習会へ指導員職員を派遣）

平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
7月14日	73名	7月13日	72名	7月12日	70名
7月19日	63名	7月17日	80名	7月12日	160名
		7月17日	85名	7月18日	160名
2回	136名	3回	237名	3回	390名

2 成果

患者や来院者が院内のどこで倒れても、最初に発見した職員が対応できることを目指して、平成 28 年度から始めた事務系職員、委託会社社員等を対象にした、一次救命処置講習会を継続して実施した。

講習会を受講した委託会社社員等が急変した来院者の第一発見者となり、講習会の学んだ手順や知識が発揮される事例も発生している。

3 課題

患者や来院者がより安全に院内で過ごせるよう、来年度も引き続き、一次救命処置の講習会を継続していきたい。

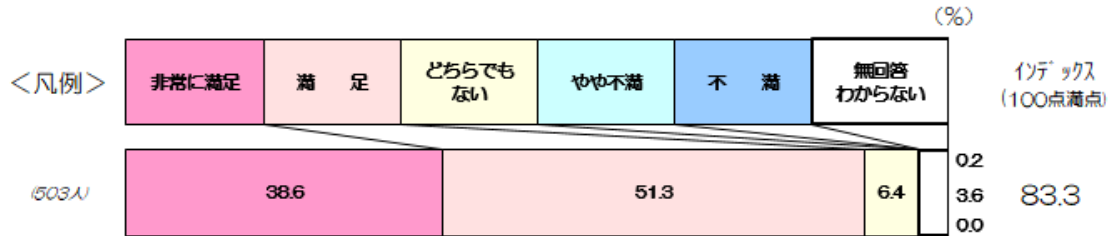
4-9 患者サービス

1 データ

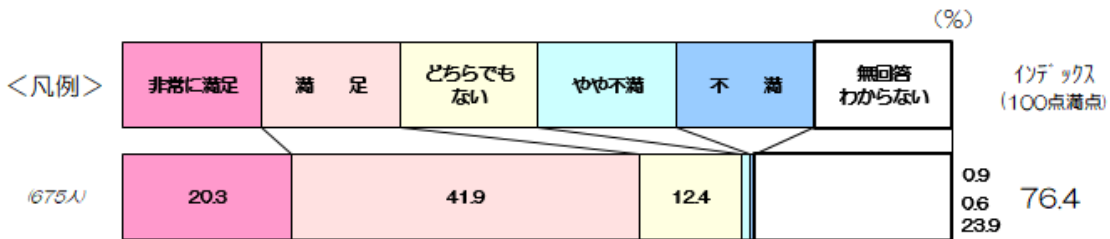
<患者満足度調査結果（令和元年度）>

【この病院に対する全体的な評価】（ ）内は当該調査の有効回答数

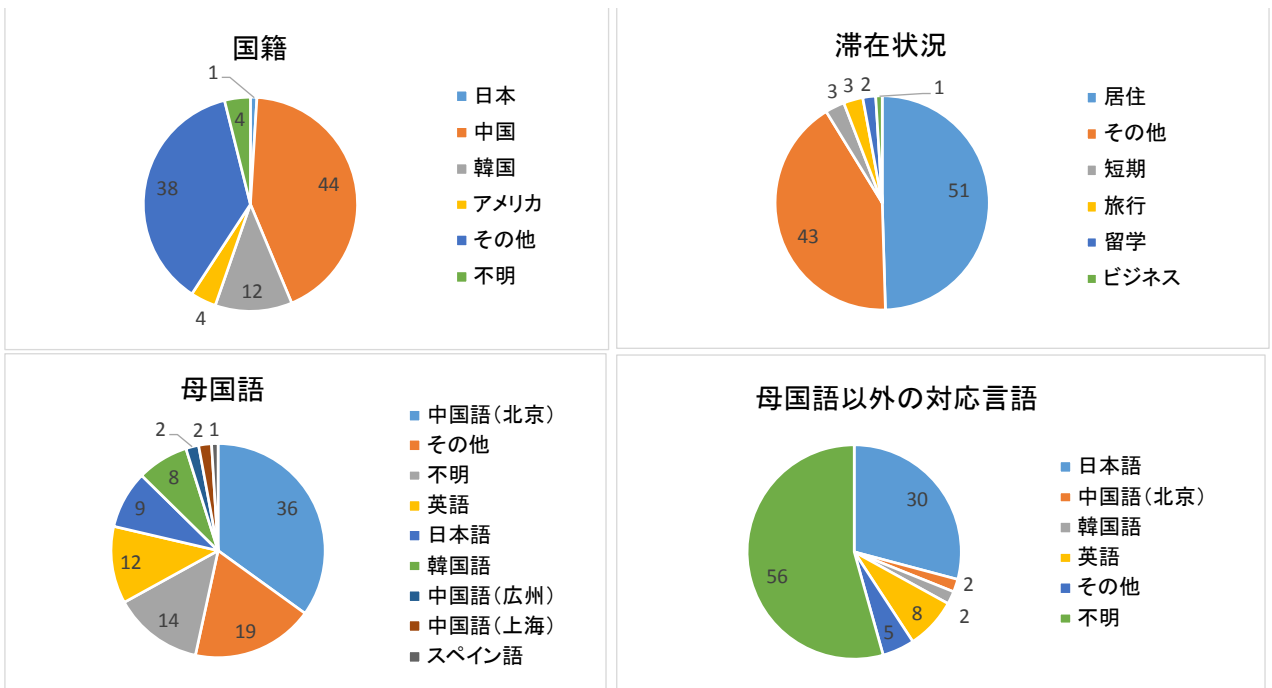
(1) 入院



(2) 外来



<外国人患者統計（令和元年12月1か月の患者数内訳）>



<外国人患者受入れ体制の整備活動>

- ・外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）受審決定、ワーキングを充足し準備を開始

- ・外国人患者受入れに関する講演会の開催
- ・組織体制の見直し、国際医療部の設置
- ・院内サイン、各種文書の多言語化対応
- ・大使館、出入国在留管理局等との連絡調整等

<病院ボランティア活動>

■令和元年度 病院奉仕団実施行事

- 5月29日 ANAすずらん贈呈
- 8月3日 緩和ケア病棟 夏のやすらぎコンサート
- 10月27日 オータムコンサート
- 12月7日 緩和ケア病棟 クリスマスピアノコンサート
- 12月22日 クリスマスコンサート

■作業部会

- ・ガーデニング：第2・4水曜日
- ・パッチワーク：第1・3金曜日
- ・車いす清掃：第1・3金曜日
- ・緩和ケアセンター内での活動：毎週金曜日
- ・緩和ケアセンター「がんサロン」のサポート
- ・病院が実施する災害訓練への協力
- ・アレルギーセンター主催「市民セミナー」への協力

2 成果

サービス向上委員会では、毎年「患者満足度調査」、「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者のご意見を分析し、患者サービス向上への取組を行っている。今年度実施した患者満足度調査においても、例年と同様、入院では約9割、外来では約6割の方から、非常に満足・満足との回答をいただいた。

外国人患者対応としては、新たな通訳媒体としてテレビ電話を活用した通訳システムを導入した。24時間365日利用可能であるため、積極的に活用されるよう運用上の工夫等を行った。外国籍の患者が増えてきている現状において、医療行為に係る通訳は、引き続きM I Cかながわと契約を締結し医療通訳者の派遣を依頼したほか、医療行為以外の内容については、外国語で患者対応ができる職員に委嘱状を交付し、通訳を実施した。また、平成28年度から開始した通訳専用のタブレット端末の運用を継続するとともに、需要の高い救急外来に新たに1台常設した結果、年間の利用件数は入院・外来合わせて延べ85件となった。

令和2年1月に国際医療部を新設し、外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）受審に向け準備活動を開始した。統計結果を基に、英語以外に中国語の対応についても検討し、外国人患者が安心して受診できる体制の整備を目指し活動中である。

ボランティア活動は、みなと赤十字病院奉仕団の病院ボランティアの方々へ協力いただき、イベント支援や車いす清掃、敷地内のガーデニング、外来患者の案内を実施している。

3 課題

会計待ち時間は改善傾向にあるが、引き続きスタッフの確保・スキルアップを初めとした待ち時間短縮の取組を重点的に進める必要がある。その他、職員の接遇の向上させるのはもちろんのこと、患者の思いに寄り添った対応ができるよう院内研修を企画し実施していく。

外国人患者対応としては、令和2年度はJMIP受審の年であり、外国人患者とのコミュニケーションツールとして、院内のWi-Fi環境の整備及びタブレット端末を増設し、積極的活用ができるよう院内講習会を企画する。また、各部署での運用フローを周知していく。

4-10 医療データベースの構築と情報提供

1 成果

- (1) 電子カルテシステムのメンテナンス実施
 - ・頻用ツールについて単体性能（ブラウザ、テンプレート、パス等）の改善を図った。
 - ・各部署からの障害報告などを受けて修正を行い、報告部署に回答した。
- (2) システム障害時のマニュアル等の見直し
 - ・各部門において伝票類の見直しを行った。
 - ・システムダウン時の参照マニュアルを更新し、電子カルテ端末のトップ画面上に起動アイコンを置くなどの対応を行った。

2 課題

- (1) 電子カルテシステムの安定稼働
 - ・レスポンスパックを適用してデータベースサーバのディスク負荷を集中的に改善するなど、引き続き、レスポンスの改善に取り組む。
- (2) インターネット環境の整備
 - ・患者向けサービスを向上させるため、外来や病棟での無線LAN（Wi-Fi）接続環境を整備・充実させる。
 - ・職員用のインターネット環境を整備して、インターネット接続の速度や利便性を向上させる。

5 職員研修

5-1 職員研修（医師）

1 データ

①事業実績

（研修会等名）	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
モーニングセミナー	年間 59 回	年間 43 回	年間 43 回
医学生向け見学会	年間 3 回 (117 名参加)	年間 3 回 (105 名参加)	年間 3 回 (107 名参加)
Morbidity and Mortality Conference	年間 4 回	年間 1 回	年間 3 回
講演会	年間 2 回	年間 2 回	年間 2 回
新規採用者 オリエンテーション	4 月 3 日開催	4 月 2 日開催	4 月 1 日開催
新規採用医師対象 オリエンテーション	4 月 4 日開催	4 月 3 日開催	4 月 2 日開催
新規採用研修医 オリエンテーション	4 月 5～10 日 (4 日間)	4 月 4～9 日 (4 日間)	4 月 3～9 日 (5 日間)
チーム医療 ワークショップ	4 月 28～29 日 (2 日間)	4 月 27～28 日 (2 日間)	4 月 26～27 日 (2 日間)
院内 C V C ライセンス 制度	認定試験 2 回 指導者試験 2 回	認定試験 4 回 指導者試験 2 回	認定試験 4 回 指導者試験 2 回
指導医養成講習会	-	年間 1 回	-
J M E C C	年間 1 回	年間 1 回	年間 1 回

②定員数（採用数）

（研修医）定員数（採用数）

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
13 (12)	11 (10)	8 (8)	8 (8)

（研修歯科医）定員数（採用数）

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
2 (2)	2 (2)	1 (1)	1 (1)

（整形外科 専攻医）定員数（採用数）

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
2 (1)	2 (1)	2 (0)	2 (0)

（内科 専攻医）定員数（採用数）

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
7 (3)	4 (2)	4 (4)

(外科 専攻医) 定員数 (採用数)

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
2 (1)	2 (1)	2 (1)

(救急科 専攻医) 定員数 (採用数)

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
6 (2)	6 (1)	6 (0)

(麻酔科 専攻医) 定員数 (採用数)

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
2 (0)	2 (0)	2 (0)

③病院見学者数 (延べ人数)

【医科】(医学生) 見学・実習者年間延べ人数の推移

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
80 (17)	111 (19)	117 (22)	128 (20)

※ () は実習者数

【歯科】(歯学生) 見学・実習者年間延べ人数の推移

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
10	9	12	15

2 成果

医師及び歯科医師臨床研修では、医師 8 名、歯科医師 1 名が研修を修了した。

E P C での評価を基本に研修医に対する指導医及び他職種からの評価を実施しフィードバックした。令和 2 年度の制度見直しへの対応を行った。

後期研修では、内科 2 名、救急 1 名、精神科 1 名が研修を修了した。専門研修では、整形外科、内科、外科、救急科で専攻医教育が行われており、麻酔科でもその準備が整っている。

初期及び専門研修に関して合同病院説明会に参加し、採用活動を行った。

東京医科歯科大学を中心にクリニカルクラークシップの学生を受け入れ、ベッドサイドでの教育を行った。

3 課題

臨床研修について、令和 2 年度運用開始の E P O C 2 への対応が必要である。

専門研修では、最初の専攻生の終了に向けた取組を行っていく必要がある。

5-2 職員研修（看護部）

1 データ

1) ラダー認定者数・院外研修受講者数等

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実践者ラダーレベルⅠ認定	54 人	56 人	57 人
レベルⅡ認定	38 人	51 人	51 人
レベルⅢ認定	13 人	20 人	2 人
レベルⅣ認定	0 人	1 人	0 人
管理者ラダーレベルⅠ認定	4 人	7 人	2 人
レベルⅡ認定	0 人	3 人	0 人
レベルⅢ認定	0 人	1 人	0 人
ラダー研修	78 回	62 回	62 回
役割研修		36 回	34 回
新人技術研修	7.0 日	7.0 日	8.0 日
院外研修(看護協会)	72 人	73 人	81 人
看護管理者ファースト研修	8 人	5 人	4 人
看護管理者セカンド研修	1 人	1 人	2 名
看護管理者サード研修	0 人	0 人	1 名
臨床指導者研修	5 人	7 人	8 人
認定看護師研修	1 人	3 人	1 人
学会発表・参加	57 人	48 人	28 人

2) 院内ラダー・役割研修実績

研修名	研修名	回数	受講者数	研修名	研修名	回数	受講者数
実践者 レベルⅠ	フォローアップ	1	66	実践者 レベルⅢ	認知症ケア	4	12
	医療と診療情報	1			口腔ケア	4	14
	フィジカルアセスメント	1			退院支援	5	18
	多重課題	1		実践者 レベルⅣ	ストレスマネジメント	2	36
	災害救護	1			キャリアカウンセリング	2	44
実践者 レベルⅡ	フィジカルアセスメント	5	58	管理者 ラダー	新任係長研修	6	2
	赤十字と看護倫理	1	53		新任師長研修	5	0
	看護と診療報酬	1	52	役割研修	救護員のための赤十字看護師研修	4	54
	看護コミュニケーション	1	49		フォローアップ研修	5	32
	ナラティブ	2	47		静脈注射基礎Ⅰ	3	65
実践者 レベルⅢ	実地指導者	5	34		静脈注射基礎Ⅱ	1	54
	リーダーシップとメンバーシップ	3	18		2019 年教育担当者	2	8
	看護倫理Ⅲ	2	21	2020 年教育担当者	1	13	
	看護研究	2	13	褥瘡専任看護師研修	6	40	
	マネジメント入門	3	21	暴力対応研修	1	21	
	フィジカルアセスメント	4	12	看護助手研修	9	50	
				クラーク研修	2	17	

2 成果・課題

1) 看護職員のキャリア開発

今年度「赤十字施設の看護師キャリア開発ラダー」の改訂があり実践者の指標として、グローバルヘルスが新たに加わった。指標の達成のために、既存の研修の内容と、指標の解釈をすり合わせ、研修企画書を作成できた。また、赤十字の基本概念であるリフレクションの研修会を企画し、各部署から参加があり、リフレクションの意味や活用の方法などを学べた。実践者ラダーレベルⅠにおいては改定後のラダー指標で評価会を実施できた。

昨年度から役割研修を開始し、褥瘡専任看護師育成研修、暴力対応研修に各部署から参加することができた。部署内の看護の質向上に必要な研修であり、多くの看護職員が受講できるように支援する。

学会参加者を今年度から認定看護師と学会発表者とした。参加人数は昨年度と比較すると減少となった。今後参加者は実践者ラダーⅢ、管理者ラダーを取得した翌年に学習する機会として学会参加できるようにした。看護研究や業務改善の実践を院外で発表できるようにするのが課題である。

2) 特定行為看護師の育成

特定行為研修指定機関となり、認定看護師の2名が特定行為研修を受講した。共通項目終了後、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連において修了生を1名育成できた。今後特定行為研修修了生が臨床の場で得た知識と技術を発揮できるようにシステムの構築が課題である。

3) 看護管理者のキャリア開発

看護管理者研修に派遣し、看護係長はファースト研修を修了した者が配置されるようになった。今後は主任の参加を推進する。管理者ラダー申請はアピール不足があり、申請者が少なかった。来年度の申請推進が課題である。

新任係長の研修は、昨年度と同様の内容を実施した。昨年度同様に先輩師長が各研修の講義を担当し、自身も学習しながら新任と共に学びを共有していた。新任師長、係長研修は現任教育の機会と捉え、次年度以降も担当を検討する。今年度新任師長はなし。

4) 研修計画の再構築

今年度「実践者・管理者ラダーレベル別研修計画」と「看護部における役割研修計画」「救護看護師研修」の3本を柱として構築した研修を実施した。役割研修の実施により看護の質の向上をめざし、具体的な看護実践ができる看護師の育成ができた。また、救護看護師研修、こころのケア研修を自施設で実施できるようになり神奈川県支部の研修と合計すると今までより多くの看護師が参加し学ぶ機会をつくることができた。

令和元年度 実践者・管理者ラダー レベル別研修計画

2019/2/12

レベル分類	研修会名	担当者※リーダー	研修委員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入職時	新卒管理職 新任任用者研修 既卒管理職 新任任用者研修	副部長		新卒管理職 4/2～4/3(別紙参照) 既卒管理職 4/2～4/3(別紙参照)	既卒入職者は入職初日に研修実施										
レベルⅠ	レベルⅠ 新卒管理職 新任任用者研修 フォローアップ研修 管理と診療情報 フィジカルアセスメントⅠ	※朝比奈係長(佐伯係長・関口係長・中川係長・佐藤係長・内藤主任・細野愛・井沢威) フィジカル②のみ ※石崎係長(山下係長・藤田係長・白井克典・三浦和典)		新卒管理職 集合技術研修(別紙参照) 4/4～5/21 (前記研修4/27～4/28) (4/8支隊にて新規採用基礎研修1あり)		フォローアップ研修① 6/28 (18:00～17:00)	医療と診療情報 (別紙参照) 7/4 (18:00～17:00)	フィジカルアセスメントⅠ② (急病時のアセスメント) 8/30又は9/13 (18:00～17:00)	神奈川県文部主催「新規採用職員1年目フォロー研修会」 9/12～9/13又は10/16～10/17又は11/19～11/20	多量訓練(各部署) 8/1～10/31					
	非十字活動	部署		防災訓練(各部署) 9月1日～11月30日											
レベルⅡ	フィジカルアセスメントⅡ	※植田係長 石崎係長 河野主任			研修① 5/28 (18:00～17:00)	研修② 6/18 (18:00～17:00)		研修③ 8/2 (18:00～17:00)		研修④ 10/4 (18:00～17:00)	研修⑤ 11/8又は11/13又は 11/18又は11/18 (18:00～17:00)				
	非十字と管理検定Ⅱ									非十字と管理検定Ⅱ 10/28 (18:00～17:00)					
	管理と診療情報	※嶋田係長 三井係長 横田係長 向田係長						管理と診療情報 (18:00～17:00)							
	管理とコミュニケーションⅡ						管理とコミュニケーションⅡ 7/17 (18:00～17:00)								
ナラティブ					研修① 6/29 (17:00～18:00)				研修② 8/29 (17:00～18:30)						
レベルⅢ	実地指導者	※置岡係長 吉田係長 櫻井主任 内田主任		研修① 4/6 (18:00～17:30)	研修② 5/7 (18:00～17:30)	研修③ 6/21 (18:00～17:30)		研修④ 8/9 (18:00～17:30)						研修⑤ 1/10 (18:00～17:30)	
	リーダーシップとメンバースHIP	※木村係長 久米主任			研修① 5/16 (17:00～18:30)			研修② 8/1 (17:00～18:30)					研修③ 1/8 (17:00～18:30)		
	管理検定Ⅲ	※上田係長 櫻村係長				研修① 6/28 (17:00～18:30)							研修② 11/28 (17:00～18:30)		
	管理研究(入門)	※丸係長 白井主任			研修① 5/13 (17:00～18:30)									研修② 1/17 (17:00～18:30)	
	マネジメント入門	※松田めぐみ係長 大久保係長				研修① 6/11 (17:00～18:30)		研修② 8/13 (17:00～18:30)	③管理体験(2時間)8/14～11/30				研修④ 12/8 (17:00～18:30)		
	フィジカルアセスメントⅢ	※持田主任 佐藤係長				研修① 6/7 (17:00～18:00)		研修② 8/23 (17:00～18:00)			研修③ 11/25 (17:00～18:00)	研修④ 12/17 (17:00～18:00)			
	認知症ケア	※上野係長 増田知子			研修① 8/30 (17:00～18:00)			研修② 7/2 (17:00～18:00)		研修③ 8/9 (17:00～18:00)			研修④ 12/13 (17:00～18:00)		
	口腔ケア	※大坪係長 矢澤主任				研修① 6/18 (17:00～18:00)		研修② 7/29 (17:00～18:00)		研修③ 9/24 (17:00～18:00)		研修④ 11/19 (17:00～18:00)			
	通院支援	※黒高係長 江藤係長 佐藤健策		研修① 4/28 (17:00～18:30)	研修② 5/27 (17:00～18:30)				研修③ 8/29 (17:00～18:30)					研修④ 12/15 (17:00～18:30)	
	院外・日赤看護大学実習指導者研修会 (15名限定・それ以外の方は参加あり)	院外の研修担当係長					④ 臨地実習(4時間) 6/1～8/30								
レベルⅣ	キャリアカウンセリング	※副部長		日赤看護大学主催 実習指導者研修会参加											
	ストレスマネジメント	※副部長 木戸係長		年に1回研修開催：1回30分開催											
	家族関係の調整			年に1回研修開催：1回60分開催と実習											
	組織論とアサーティブネス			院外研修で読み替え(全席参加) 認定管理職・専門管理職は研修期間中の読取で読み替え可											
管理ラダー レベルⅠ	新任係長研修	※高松係長 副部長			研修① 5/12 (18:00～17:00)	研修② 6/12 (18:00～17:00)	研修③ 7/10 (18:00～17:00)	研修④ 8/14 (18:00～17:00)		研修⑤ 10/9 (18:00～17:00)	研修⑥ 11/11 (18:00～17:00)				
管理ラダー レベルⅡ	新任係長研修 (今年度公開予定なし)	師長 副部長		研修⑦⑧ (10:00～18:00) 研修⑨⑩⑪⑫ (18:00～17:00)	研修③ 6/19 (18:00～17:30)					研修④ 10/16 (18:00～17:00)			研修⑤ 2/18 (18:00～17:00)		

5-3 職員研修（薬剤部）

1 データ

部内研修実績

- ・Quality Indicator（Q I）とバランスト・スコアカード（B S C）から個人目標へのつなげ方 1回
- ・ランチタイムセミナー 36回
- ・文献検索、D I 情報共有 2回
- ・がんに関する勉強会 9回
- ・感染に関する勉強会 4回
- ・循環器に関する勉強会 1回
- ・他職種を講師として招聘して行った勉強会 2回
- ・栄養に関する勉強会 2回
- ・学会報告会 12回
- ・D I 室への掲示による報告 15例
- ・病棟関連業務、調剤室業務に関するオーディット及び勉強会 9回
- ・共有事例研究 3回

学会発表

- ・日本医療薬学会 4演題
- ・日本緩和医療薬学会 1演題
- ・日本癌治療学会学術集会 1演題
- ・日本臨床腫瘍学会学術集会 1演題
- ・日本中毒学会学術集会 1演題
- ・日本循環器学会学術集会 1演題
- ・日赤医学総会 1演題

講演

- ・横浜・川崎がん病病連携会講演会 1演題
- ・日本医療薬学会シンポジウム 1演題
- ・かながわ薬剤師学術大会シンポジウム 1演題

2 成果

- ・薬剤部内において部員会でのプログラムを作成し、薬剤師研修委員会を中心に部員会をはじめとした研修の質の向上に努めている。
- ・専門、認定薬剤師取得を見据えた研修及び学会に積極的に参加し、その結果について部内フォーマットによる書面報告や部員会における口頭報告を実施し、その成果を部全体で共有している。また、研修成果として学会

発表（論文投稿を含む）を積極的に行っている。

- Q I やB S Cを基に、個人目標シートを作成するとともに年2回以上の面談を実施し目標達成度と次の目標を確認しながら所属長及び研修担当と各職員が情報を共有し継続的に実施している。
- 日常業務から問題点を抽出し、評価、改善さらに評価を重ね、それらを論文として著し輩出する者が出たことは、薬剤部としても大きな成果と言える。

3 課題

- 薬剤師教育ラダーを活用し教育を行っているが、今後は評価方法についても更に検討していく必要がある。
- 専門、認定薬剤師取得者を増やし薬物療法の質向上につなげるため、研修、学会への参加を引き続き積極的に進める。
また、他施設の見学及び研修も積極的に進め、専門、認定の必要性についてもさらに理解を深める必要がある。
- 設定した個人目標を確実に達成させ、個々の質を高めるとともに薬剤部全体の質を高めるよう目標管理シートの活用や部員会の充実に努める。

5-4 職員研修（医療技術部門）

1 データ

研修会名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
新規採用者オリエンテーション	4 月開催	4 月開催	4 月開催
インシデント報告ツール説明会	5 月開催	4 月開催	4 月開催
医療技術部門合同研修会	年間 2 回 開催	—	—
チーム医療ワークショップ	年間 1 回 開催	年間 2 回 開催	年間 2 回 開催
各部門研修（5 部門）	年間 75 回 開催	年間 68 回 開催	年間 70 回 開催

2 成果

医療技術部門全体で行う研修を開催せず、各部門で開催する研修・勉強会を増やした。

部署による取組の差はあるが、全部署で実施し、成果を上げることができた。

3 課題

前年に引き続き、積極的な院内研修の参加、各部門内での研修の実施をサポートするとともに、専門職の認定資格取得、学会発表を推進していく。

5-5 職員研修（事務部）

1 データ

	平成30年度	令和元年度
レベル1 (入社1年目)	対象者3人 総合案内研修、他部署体験、 コミュニケーションスキル研 修など12回	対象者6人 総合案内研修、他部署体験、 コミュニケーションスキル研 修など12回
レベル2 (入社2年目)	対象者5人 業務改善成果発表、目標管理な ど9回	対象者3人 医療保険制度、会計の基礎、目 標管理など9回
レベル3 (入社3年目 以降の主事)	対象者52人 パワーポイントの作り方、他院 見学、出張報告会など6回	対象者52人 業務改善提案、コンプライアン ス研修、災害対応研修など6回
レベル4 (係長クラス)	対象者12人 問題解決、リーダーシップ など2回	対象者12人 伝達講習と部署間連携促進目 的とした自部署紹介2回
レベル5 (課長クラス)	対象者14人 コミュニケーション、経営改善 院内講習など1回	対象者14人 外部派遣研修、病院見学受入、 院内研修（業務効率化）など6 回

2 成果

レベル別教育研修のうち、レベル1については、仕事に直結する内容やマナー研修など受講者の需要と合致し満足度は高い。レベル2については、研修内容及び習熟度の判定（効果測定）についても定着し、レベル3については、必須と選択コースの項目を分けて、主体性を尊重した研修のほか、仕事の根拠理解や実務能力向上を目的に多彩な研修をすることができた。

レベル4及び5については、部署間連携や経営改善をテーマにした研修開催と外部講習に派遣し、新たな知識の獲得や認識を改めることができた。

3 課題

レベル3対象者職員は、人数・経験年数も幅広く、組織の中で実務の中核をなすため、勤務時間内の研修開催は全員が参加できず、複数年度での研修受講に改めたが、引き継ぎ、開催方法や受講管理のあり方が検討課題となる。

また、将来の組織運営を見据え、中堅層・管理監督者層（レベル4・5）を育成する上で、高度な専門性を有する医療人の育成と赤十字グループ間の異動の両立が課題となっている。

6 院外からの研修受入れ

6-1 院外からの研修受入れ（看護部）

1 データ

1) 研修受入れ数（添付資料参照）

(1) 看護基礎教育実習

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
受入れ総数	449 名	466 名	409 名

(2) 卒後教育実習

	平成 19 年度	平成 30 年度	令和元年度
受入れ総数	11 名	16 名	6 名

2) 実習指導者研修

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実習指導者研修修了者数※	29 名	30 名	32 名

※看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修は含めず

2 成果と課題

1) 基礎教育実習と卒後教育実習の受入れ

(1) 基礎教育実習は、今年度計画した 2 大学（日本赤十字看護大学、創価大学）、3 看護専門学校（神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校）を受け入れた。今年度は、予定では前年より 34 名多い 500 名の学生を受け入れる計画であったが、実習校の諸事情により実績としては 409 名の受入れとなった。今後も神奈川県内の看護学生を受け入れていく。次年度は、神奈川県立保健福祉大学の母性看護学実習の受入れを予定している。

(2) 卒後教育では、認定看護管理者養成課程、看護教育実習、大学院の国際保健助産学専攻の学生計 5 名と病棟研修生 1 名を受け入れた。今年度は、認定看護師の協力が得られず、研修生を受け入れることができなかった。研修生への指導の機会は、認定看護師の実績になるだけでなく、現場へもよい影響が得られることが期待できる。そのため、今後は積極的にこうした研修生を受け入れていきたい。

2) 実習指導者の育成

今年度は、実習指導者研修（長期）に 7 名派遣した。実習指導者の長期研修修了生はこの数年で毎年 7～8 名を派遣しているがまだまだ不足している。今後も長期実習指導者研修生が増員できるよう計画的な育成を目指す。日本赤十字看護大学フロンティアセンターでの実習指導者育成のための研修にも積極的に派遣した（15 名）。

3) 実習環境の整備

実習生が受け持ち患者の観察や処置に必要な物品や教本を各部署購入し、学習環境を整備した。実習校からも好評であった。

令和元年度 卒後教育実習受入れ一覧 2018.7

	4月	5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月									
		1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	5	12	19	26		
5C		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
日本赤十字看護大学大学院 (国際保健助産学専攻)							2	2																																											
7A							1	1																																											
看護教育実習(県立衛生看護専門学校からの依頼)							5/29~6/7																																												
管理																			1																																
看護管理者研修サードレベル 静岡県看護協会																																																			
管理																							1																												
看護管理者研修サードレベル 広島県看護協会																																																			
緩和																															1																				
緩和病棟研修 長岡赤十字病院																															12/5,6																				
合計																																																			

6-2 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 データ

研修名	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
薬科大実務実習	18 名	17 名	16 名
早期体験実習	24 名	14 名	14 名
学生版薬薬連携実習	31 名	43 名	32 名

2 成果

薬科大学実務実習では、新しいコアカリキュラムのプログラムを中心に臨床現場に重点を置き、学生一人一人に実習担当として薬剤師を配置することで臨床に則した実習を行ってきた。

早期から薬薬連携を意識することを目的とし、近隣調剤薬局の学生とともに当院の患者に対する症例検討を学生版薬薬連携実習として実施した。

また、薬科大学の早期体験実習、中学生の職場体験実習、神奈川県病院薬剤師会実務実習の研修の受入れを行った。

3 課題

令和元年度の実務実習では、新しいコアカリキュラムでの実習が展開された。その中で、患者を継続してモニタリングできる環境を作りながら、病棟業務を中心とした実務実習ができてきた。今後は、さらに充実させ当院独自に作成しているテキストの中身もブラッシュアップしていきたい。

6-3 院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）

1 データ

リハビリテーション実習生受入れ状況

平成 29 年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	4 名
作業療法臨床実習生	3 名		
平成 30 年度：理学療法評価実習生	2 名	理学療法臨床実習生	4 名
作業療法臨床実習生	3 名		
令和元年度：理学療法評価実習生	1 名	理学療法臨床実習生	3 名
作業療法臨床実習生	3 名		

2 成果

令和元年度も理学療法及び作業療法学生の実習を受け入れることができた。理学療法の実習生は受入れ時期を考慮して減少したが、実習を通して、学生には急性期リハビリテーションについて学習する良い機会となった。また、実習指導を担当したスタッフは、後輩の育成についての研鑽を積む機会を得ることができた。

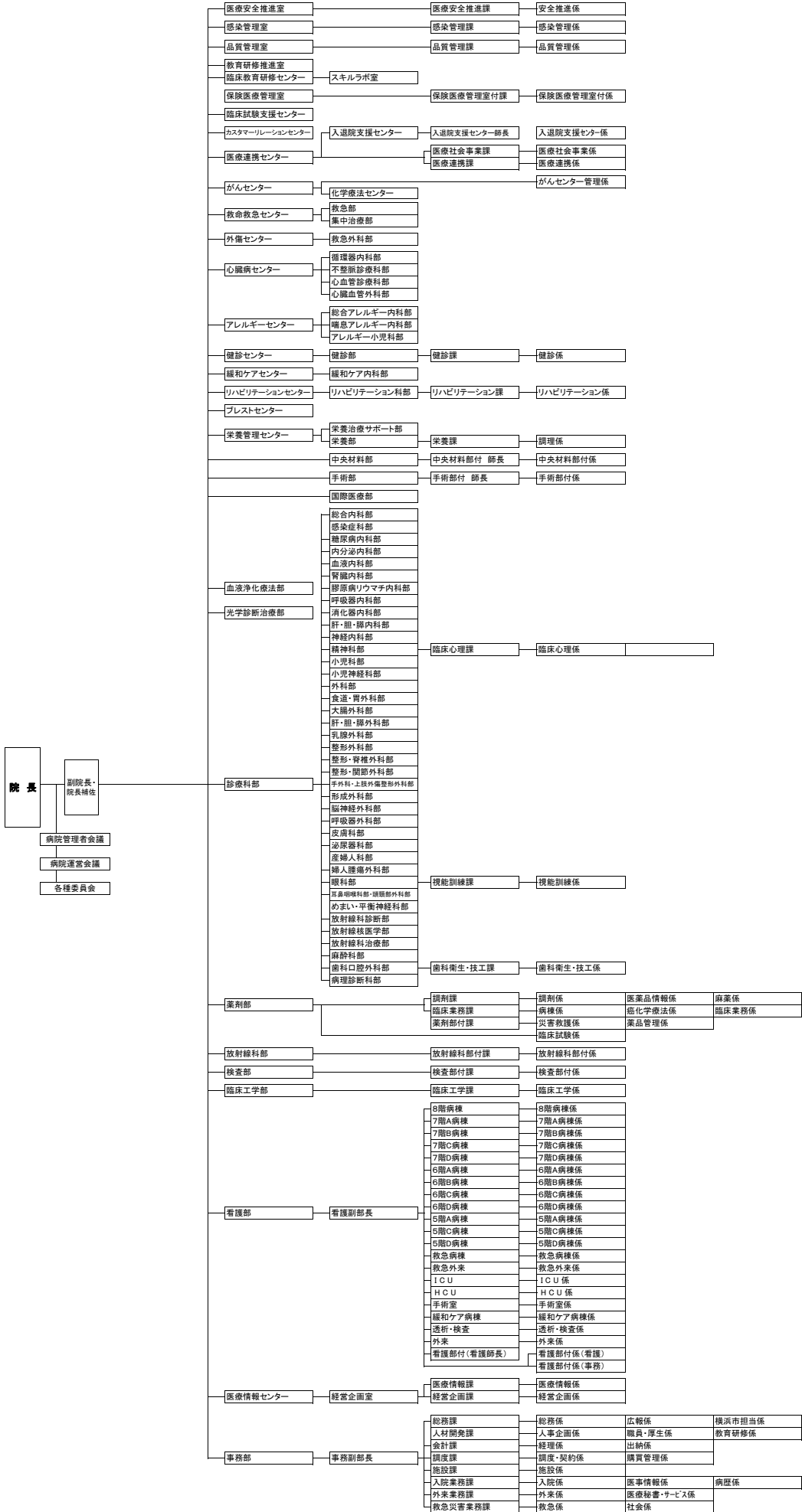
3 課題

実習生を受け入れる上で問題になるのが、実習担当スタッフの時間的、精神的負担であることは従来と変わらない。また、患者への説明や同意、あるいは実習生への負荷についても配慮が必要である。リハビリテーションスタッフは1単位20分という時間の制約の中で、患者の診療に関わるため、どうしても超過勤務を余儀なくされてしまう。その中でいかにして、後輩たちを優秀な人材に育てるのかという課題に取り組んでいる。

また、厚労省から公布された理学療法士作業療法士養成施設指定規則の改正に対応するべく、スタッフが臨床実習指導者研修会へ参加している。

7 職員

横浜市立みなと赤十字病院 組織図 2020.1.1



7-2 職員配置状況

	職 種	配置 人員数	内 訳			備 考
			常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事 務 職 員	191.0	87.0	10.0	94.0	看護師3名、横浜市職員2名含む
	技 術 職 員	1.0	1.0	0.0	0.0	
	運 転 手	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ボ イ ラ ー 技 師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	電 話 交 換 手	2.0	0.0	0.0	2.0	
診 療 部 門	医 師	212.0	122.0	90.0	0.0	
	歯 科 医 師	4.0	2.0	2.0	0.0	
看 護 部 門	看 護 師	632.0	606.0	26.0	0.0	
	准 看 護 師	1.0	1.0	0.0	0.0	
	看 護 助 手	64.0	47.0	15.0	2.0	
	事 務 職 員	18.0	2.0	0.0	16.0	
健 診 部 門	看 護 師	3.0	3.0	0.0	0.0	
	事 務 職 員	15.0	3.0	0.0	12.0	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	8.0	8.0	0.0	0.0	
	精 神 保 健 福 祉 士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	看 護 師	7.0	7.0	0.0	0.0	
	事 務 職 員	14.0	7.0	0.0	7.0	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	43.0	43.0	0.0	0.0	
	診 療 放 射 線 技 師	37.0	37.0	0.0	0.0	
	臨 床 検 査 技 師	47.0	40.0	7.0	0.0	衛生検査技師1含む
	理 学 療 法 士	19.0	19.0	0.0	0.0	
	作 業 療 法 士	9.0	9.0	0.0	0.0	
	言 語 聴 覚 士	4.0	3.0	1.0	0.0	
	マ ッ サ ー ジ 師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	臨 床 工 学 技 士	11.0	11.0	0.0	0.0	
	視 能 訓 練 士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	歯 科 衛 生 士	4.0	4.0	0.0	0.0	
	臨 床 心 理 士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	管 理 栄 養 士	9.0	9.0	0.0	0.0	
	栄 養 士	0.0	0.0	0.0	0.0	
	調 理 師	6.0	6.0	0.0	0.0	
事 務 職 員	6.0	1.0	0.0	5.0		
その他		5.0	1.0	1.0	3.0	アレルギーセンター事務
合 計		1378.0	1085.0	152.0	141.0	

8 施設管理

8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	機器名称	用途	新規・更新
1	診療	血液浄化装置	透析室用	更新
2	中央	高周波手術装置	手術用	更新
3	診療	胎児集中監視システム	病棟用	更新
4	診療	新生児用人工呼吸器	病棟用	更新
5	中央	超音波画像診断装置	検査部用	更新
6	診療	自動視野計	眼科外来用	更新
7	診療	高周波焼灼装置	内視鏡室用	更新
8	中央	手術用顕微鏡	手術用	更新
9	中央	全身用X線CT	放射線科用	更新
10	中央	自動染色封入システム	病理検査用	更新
11	看護	介助入浴装置	病棟用	更新
12	中央	移動型X線撮影装置	手術用	更新
13	中央	低温プラズマ滅菌装置	滅菌室用	更新
14	中央	放射線治療計画システム	放射線科用	更新

8-2 施設設備改修報告

(令和元年度)

	部門名ごとに整理 (中央・看護・管理・診療等)	施設・設備名称	面積(m ²)	用途	新規・修繕
1	エネルギーセンター棟	貫流式蒸気ボイラー	—	貫流式蒸気ボイラー6台更新し、1台を撤去	修繕
2	病院棟内	ガスエンジン発電機 (G-1、G-2) 煙突	—	ガスエンジン発電機(G-1、G-2) 煙突内部の補修	修繕
3	院内各所機械室内	外調機メインフィルター	—	各外調機・空調機メインフィルターの 一斉交換	修繕
4	エネルギーセンター棟	揚水ポンプNo.1、No.2	—	揚水ポンプNo.1、No.2更新工事	修繕
5	病院棟内	1階入退院支援センター	26.60	1階入退院支援センター拡張工事	新規

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	令和元年(2019年) 実 施 月												令和2年(2020年)	関連法規及び保守管理基準
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
特定建築物	定期検査	1回/1~3年								●						建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家用発電設備(コジェネ発電)	定期検査	1回/年			●								●			電気事業法・消防法
ボイラー	性能検査	1回/年			●											労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年			●	●										労働安全衛生法
ゴンドラ(H29.12.5~H30.12.4まで休止中)	性能検査	1回/年														労働安全衛生法(H2911.13休止届提出)
第2種圧力容器	自主検査	1回/年			●	●										労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年									●					水道法
ガスタービン(ガス圧縮機)	定期検査	1回/3年														電気事業法(H30年度実施次回R3年度)
消防設備	定期検査	2回/年					●						●			消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/3年														消防法(H30年度実施次回R3年度)
避難はしご設備	自主点検	2回/年					●						●			消防法
高圧ガス製造設備	自主点検	1回/年								●						高圧ガス保安法
医療ガス設備	定期点検	4回/年		●			●			●			●			高圧ガス保安法
特定施設(水質測定)	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばい煙測定	定期検査	2回/年			●							●				大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●	●					電気事業法
高圧受変電設備定期検査	定期検査	1回/年								●	●					電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年										●				電気事業法
(非常用照明)	定期検査	(1回/年)										●				電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年										●				電気事業法
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年									●					電気事業法
建築設備定期検査	定期検査	1回/年								●						建築基準法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年							●							水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年							●						●	水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

機能維持に関する保守管理等	管理種別	周期	実 施 月												関連法規及び保守管理基準
			令和元年(2019年)						令和2年(2020年)						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
放送呼出装置	自主点検	2回/年					●						●		消防法
ナースコール・インターホン設備	自主点検	2回/年				●						●			メーカー標準点検
昇降機設備	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
冷凍機設備	自主点検	3回/年	●				●								メーカー標準点検
冷却塔設備	自主点検	2回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空調調和設備	機能点検	2回/年		●						●					自主点検
空調自動制御設備	自主点検	1回/年											●		メーカー標準点検
バックージ点検	定期点検	1回/3年													フロン排出抑制法（H30年度実施次回R3年度）
チラー点検	定期点検	1回/年			●						●				フロン排出抑制法
各種水槽設備	清掃	1回/年		●	●					●					横浜市条例
検査系排水処理設備	定期点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
R1排水処理設備	自主点検	2回/年						●						●	放射線障害防止法
自動ドア設備	自主点検	2回/年				●							●		メーカー標準点検
駐車場管制設備	自主点検	2回/年				●						●			メーカー標準点検
搬送設備	自主点検	2回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
冷却塔補給水薬注装置	自主点検	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
厨房グリスフィルター定期清掃業務	清掃	4回/年			●			●			●			●	自主管理
厨房グリストラップ定期清掃業務	清掃	6回/年	●	●		●		●	●	●		●		●	ビル管理法

その他の保守管理業務	管理種別	実施回数	実 施 月												関連法規及び保守管理基準
			令和元年(2019年)						令和2年(2020年)						
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
空調機等フィルター交換（洗浄）	洗浄	1回/月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	汚れが認められたら交換
窓清掃	清掃	2回/年							●					●	汚れにより適宜行う
エチレンオキシド環境測定	定期点検	2回/年		●							●				労働安全衛生法
ホルムアルデヒド作業環境測定	定期点検	2回/年				●						●			労働安全衛生法

8-4 外部委託（令和元年度）

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者（会社名）	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	富士産業株式会社	栄養課
2	中央材料室洗浄・滅菌業務、手術室サポート業務、内視鏡室洗浄・消毒業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務、手術室術間清掃業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	検体検査業務	検体検査業務	株式会社エスアールエル	検査部
5	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
6	寝具貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サンビームランドリー	調度課
7	白衣等リース業務	看護師、看護助手、SPDの白衣及びタオルのリース	株式会社柴橋商会	調度課
8	白衣等リース業務	医師、コメディカルの白衣のリース	株式会社サンビームランドリー	調度課
9	SPD物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	株式会社ホスピタルパートナーズ	調度課
10	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務、薬品在庫管理業務、配置定数薬の補充管理業務、搬送業務等	東邦薬品株式会社	薬剤部
11	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務	株式会社ソラスト	入院業務課 外来業務課
12	医療情報センター関連業務	医事統計の作成、データ分析、システム障害対応等	株式会社ソラスト	医療情報課
13	治験事務関連業務	治験事務局支援業務及び治験審査委員会事務局支援業務	ノイエス株式会社	薬剤部
14	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ポピンズ	総務課
15	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
16	警備業務	院内外の警備業務	株式会社KSP	施設課
17	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	高砂丸誠 エンジニアリングサービス株式会社	施設課
18	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
19	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
20	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキワ薬品化工	施設課
21	医薬品（医療ガス）供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
22	統計解析業務	ARMS及び喘息日誌症例データ解析	株式会社アルファインターナショナル	アレルギーセンター
23	データ保管業務	診療録保管業務	株式会社寿製作所	入院業務課
24	緑地維持管理業務	院内緑地の剪定・除草・芝生刈り業務	株式会社愛花園	施設課
25	被ばく線量測定業務	クイックセルバッジ・リングバッジ測定	長瀬ランダウア株式会社	調度課
26	医療廃棄物処理業務	医療廃棄物処理業務	横浜綿布工業株式会社	施設課
27	病棟病室床頭台・ランドリー管理業務	病棟病室床頭台（TV・冷蔵庫）・コインランドリー保守管理業務	株式会社パースジャパン	施設課

※派遣・保守に関する業務、倉庫借用に伴う業務を除く

9 經營報告

令和元年度

診療科別患者数等管理数値

診療科	外来(240日)										入院(366日)										救急患者							
	新患者数				延患者数				1日平均		新入院数				退院数	延患者数				1日平均					在院日数			
	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	当年度	前年度	増減	増減率		当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	当年度	前年度	全体	救急車	入院	入院率	
総合内科	579	797	-218	-27.4%	1,253	1,611	-358	-22.2%	5.2	6.6	149	160	-11	-6.9%	1	267	254	13	5.1%	0.7	0.7	3.3	2.8	453	153	185	40.8	
糖尿病内分泌内科	575	512	63	12.3%	13,294	12,362	932	7.5%	55.4	50.7	400	383	17	4.4%	445	5,820	5,927	-107	-1.8%	15.9	16.2	10.6	10.5	77	59	70	90.9	
血液内科	179	181	-2	-1.1%	4,701	4,542	159	3.5%	19.6	18.6	433	515	-82	-15.9%	434	8,254	9,929	-1,675	-16.9%	22.6	27.2	16.1	15.7	62	42	56	90.3	
腎臓内科	313	319	-6	-1.9%	7,568	7,094	474	6.7%	31.5	29.1	422	428	-6	-1.4%	503	6,919	6,848	71	1.0%	18.9	18.8	10.9	11.3	125	101	110	88.0	
膠原病リウマチ科	230	218	12	5.5%	9,071	8,379	692	8.3%	37.8	34.3	96	90	6	6.7%	128	2,757	2,781	-24	-0.9%	7.5	7.6	17.8	17.2	20	13	15	75.0	
緩和ケア内科	277	348	-71	-20.4%	457	553	-96	-17.4%	1.9	2.3	176	253	-77	-30.4%	246	4,168	6,807	-2,639	-38.8%	11.4	18.6	(18.6)	(21.1)	12	11	12	100.0	
呼吸器内科	970	1,007	-37	-3.7%	13,056	12,497	559	4.5%	54.4	51.2	1,068	1,097	-29	-2.6%	1,034	15,217	15,812	-595	-3.8%	41.6	43.3	10.2	9.9	651	466	548	84.2	
消化器内科	2,381	2,288	93	4.1%	24,935	25,086	-151	-0.6%	103.9	102.8	2,254	2,171	83	3.8%	2,176	21,315	19,992	1,323	6.6%	58.2	54.8	8.7	8.3	1,139	587	799	70.1	
循環器内科	1,387	1,403	-16	-1.1%	18,124	18,170	-46	-0.3%	75.5	74.5	1,816	1,870	-54	-2.9%	1,821	14,240	14,011	229	1.6%	38.9	38.4	5.4	5.2	491	336	394	80.2	
神経内科	586	665	-79	-11.9%	7,805	7,964	-159	-2.0%	41.1	41.3	472	648	-176	-27.2%	527	12,545	16,799	-4,254	-25.3%	34.3	46.0	17.1	16.6	395	298	294	74.4	
アレルギー科	408	355	53	14.9%	6,673	6,375	298	4.7%	27.8	26.1	52	57	-5	-8.8%	53	279	354	-75	-21.2%	0.8	1.0	4.0	4.9	43	25	31	72.1	
小児科	3,255	3,952	-697	-17.6%	13,060	14,157	-1,097	-7.7%	54.4	58.0	1,159	1,250	-91	-7.3%	1,162	4,790	5,693	-903	-15.9%	13.1	15.6	3.9	4.3	2,460	815	262	10.7	
外科	615	508	107	21.1%	8,913	8,746	167	1.9%	37.1	35.8	1,214	1,123	91	8.1%	1,242	14,452	12,194	2,258	18.5%	39.5	33.4	7.2	6.5	326	184	285	87.4	
乳腺外科	505	597	-92	-15.4%	9,688	9,392	296	3.2%	40.4	38.5	259	259	0	0.0%	263	2,236	2,293	-57	-2.5%	6.1	6.3	7.2	7.7	30	9	12	40.0	
呼吸器外科	17	18	-1	-5.6%	1,597	1,590	7	0.4%	11.4	11.0	76	68	8	11.8%	97	872	823	49	6.0%	2.4	2.3	3.9	4.8	0	0	0	0.0	
心臓血管外科	174	185	-11	-5.9%	2,666	2,402	264	11.0%	19.0	16.7	245	240	5	2.1%	260	4,961	4,436	525	11.8%	13.6	12.2	6.4	6.1	67	57	58	86.6	
脳神経外科	667	733	-66	-9.0%	3,270	3,258	12	0.4%	23.4	22.6	433	388	45	11.6%	419	8,125	6,900	1,225	17.8%	22.2	18.9	10.0	9.4	484	305	326	67.4	
整形外科	2,281	2,569	-288	-11.2%	23,268	23,618	-350	-1.5%	97.0	96.8	1,242	1,218	24	2.0%	1,283	18,901	18,611	290	1.6%	51.6	51.0	11.3	10.8	617	252	275	44.6	
形成外科	338	477	-139	-29.1%	3,238	3,360	-122	-3.6%	17.0	17.4	152	122	30	24.6%	165	1,985	2,155	-170	-7.9%	5.4	5.9	10.0	13.4	38	7	7	18.4	
皮膚科	1,156	1,258	-102	-8.1%	9,641	9,958	-317	-3.2%	40.2	40.8	187	183	4	2.2%	189	1,712	1,924	-212	-11.0%	4.7	5.3	7.0	8.3	138	27	33	23.9	
泌尿器科	1,067	1,156	-89	-7.7%	11,647	12,168	-521	-4.3%	48.5	49.9	934	938	-4	-0.4%	935	7,428	7,375	53	0.7%	20.3	20.2	7.6	7.3	256	61	79	30.9	
産婦人科	1,300	1,518	-218	-14.4%	20,340	23,092	-2,752	-11.9%	84.8	94.6	1,143	1,266	-123	-9.7%	1,143	8,816	10,816	-2,000	-18.5%	24.1	29.6	6.7	7.6	644	78	405	62.9	
眼科	520	473	47	9.9%	9,764	10,040	-276	-2.7%	40.7	41.1	365	336	29	8.6%	364	1,110	1,055	55	5.2%	3.0	2.9	3.2	4.0	1	0	0	0.0	
耳鼻いんこう科	1,837	1,770	67	3.8%	15,259	14,236	1,023	7.2%	63.6	58.3	454	433	21	4.8%	452	4,074	4,286	-212	-4.9%	11.1	11.7	7.2	8.2	140	32	49	35.0	
リハビリテーション科	3	5	-2	-40.0%	219	452	-233	-51.5%	0.0	0.0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.0		
精神科	359	309	50	16.2%	11,405	11,123	282	2.5%	60.0	57.0	172	177	-5	-2.8%	207	8,444	8,326	118	1.4%	23.1	22.8	37.9	32.3	50	16	36	72.0	
放射線診断科	1,420	1,405	15	1.1%	1,672	1,621	51	3.1%	8.8	8.3	1	8	-7	-87.5%	1	2	19	-17	-89.5%	0.0	0.1	1.0	1.4	0	0	0	0.0	
放射線治療科	44	41	3	7.3%	4,910	4,311	599	13.9%	25.8	22.1	48	36	12	33.3%	42	827	879	-52	-5.9%	2.3	2.4	15.9	22.2	0	0	0	0.0	
歯科口腔外科	2,812	2,490	322	12.9%	14,437	13,711	726	5.3%	60.2	56.2	373	367	6	1.6%	374	801	710	91	12.8%	2.2	1.9	1.1	0.9	12	5	3	25.0	
救急科	8,162	8,039	123	1.5%	11,681	11,337	344	3.0%	31.9	31.1	681	787	-106	-13.5%	536	7,562	8,293	-731	-8.8%	20.7	22.7	7.4	6.9	11,531	7,251	820	7.1	
麻酔科	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0.0	0.0	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0.0%	0.0	0.0	-	-	0	0	0	0.0	
合計	34,417	35,596	-1,179	-3.3%	283,612	283,205	407	0.1%	1,181.7	1,160.7	16,476	16,871	-395	-2.3%	16,502	188,879	196,302	-7,423	-3.8%	516.1	537.8	8.5	8.4	20,262	11,190	5,164	25.5	
令和元年度	病床利用率(634床)・・・81.4% 病床利用率(616床)・・・83.8% 紹介率・・・77.2% 逆紹介率・・・94.9% 分娩件数・・・653件																				平成30年度				21,537	11,404	5,506	25.6
平成30年度	病床利用率(634床)・・・84.8% 病床利用率(616床)・・・87.3% 紹介率・・・76.2% 逆紹介率・・・84.3% 分娩件数・・・785件																				増減				-1,275	-214	-342	-0.1%

令和元年度

診療科別患者数等管理数値

診療科	外来診療収入								入院診療収入								入外合計額				手術						
	診療収入				収入単価				診療収入				診療収入(室料差額除)				収入単価										
	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	
総合内科	14,623	20,057	-5,434	-27.1%	11,671	12,450	-780	-6.3%	18,492	16,605	1,887	11.4%	17,554	15,199	2,355	15.5%	65,746	59,839	5,907	9.9%	33,115	36,663	-3,547	-9.7%	0	0	
糖尿病内分泌内科	206,938	189,887	17,051	9.0%	15,566	15,361	206	1.3%	259,766	265,912	-6,146	-2.3%	248,527	254,888	-6,360	-2.5%	42,702	43,005	-302	-0.7%	466,704	455,799	10,904	2.4%	0	0	
血液内科	240,171	170,489	69,682	40.9%	51,089	37,536	13,553	36.1%	654,813	769,523	-114,711	-14.9%	639,107	747,858	-108,750	-14.5%	77,430	75,321	2,109	2.8%	894,984	940,012	-45,028	-4.8%	0	0	
腎臓内科	155,425	131,440	23,984	18.2%	20,537	18,528	2,009	10.8%	373,022	369,598	3,424	0.9%	360,114	355,917	4,198	1.2%	52,047	51,974	73	0.1%	528,447	501,038	27,408	5.5%	128	95	
膠原病リウマチ科	260,648	236,806	23,841	10.1%	28,734	28,262	472	1.7%	117,391	132,672	-15,282	-11.5%	111,900	126,800	-14,900	-11.8%	40,588	45,595	-5,008	-11.0%	378,038	369,479	8,560	2.3%	0	0	
緩和ケア内科	3,261	4,347	-1,086	-25.0%	7,136	7,861	-725	-9.2%	252,011	398,120	-146,109	-36.7%	220,314	349,660	-129,347	-37.0%	52,858	51,368	1,491	2.9%	255,272	402,467	-147,195	-36.6%	0	0	
呼吸器内科	360,895	283,583	77,312	27.3%	27,642	22,692	4,950	21.8%	903,738	934,766	-31,027	-3.3%	865,150	894,165	-29,015	-3.2%	56,854	56,550	304	0.5%	1,264,633	1,218,349	46,285	3.8%	0	1	
消化器内科	363,226	393,208	-29,982	-7.6%	14,567	15,674	-1,107	-7.1%	1,255,574	1,203,602	51,971	4.3%	1,201,166	1,150,784	50,382	4.4%	56,353	57,562	-1,209	-2.1%	1,618,800	1,596,810	21,989	1.4%	1	3	
循環器内科	246,012	246,426	-414	-0.2%	13,574	13,562	12	0.1%	2,925,000	2,981,030	-56,030	-1.9%	2,893,695	2,946,958	-53,263	-1.8%	203,209	210,332	-7,123	-3.4%	3,171,012	3,227,456	-56,444	-1.7%	265	327	
神経内科	80,792	82,806	-2,014	-2.4%	10,351	10,397	-46	-0.4%	663,718	878,574	-214,857	-24.5%	638,297	844,267	-205,970	-24.4%	50,881	50,257	624	1.2%	744,510	961,380	-216,870	-22.6%	0	0	
アレルギー科	78,447	73,956	4,491	6.1%	11,756	11,601	155	1.3%	12,815	20,578	-7,762	-37.7%	12,019	19,835	-7,816	-39.4%	43,079	56,030	-12,951	-23.1%	91,263	94,534	-3,271	-3.5%	0	0	
小児科	133,675	161,954	-28,279	-17.5%	10,235	11,440	-1,204	-10.5%	249,801	276,780	-26,979	-9.7%	242,903	269,631	-26,728	-9.9%	50,710	47,362	3,349	7.1%	383,476	438,734	-55,257	-12.6%	0	0	
外科	288,198	302,306	-14,107	-4.7%	32,335	34,565	-2,230	-6.5%	1,231,575	1,044,649	186,926	17.9%	1,187,116	1,013,612	173,504	17.1%	82,142	83,124	-982	-1.2%	1,519,773	1,346,955	172,818	12.8%	971	826	
乳腺外科	379,420	343,855	35,565	10.3%	39,164	36,611	2,552	7.0%	214,572	216,866	-2,295	-1.1%	206,002	205,389	612	0.3%	92,130	89,572	2,557	2.9%	593,992	560,721	33,271	5.9%	262	264	
呼吸器外科	41,418	42,945	-1,528	-3.6%	25,935	27,010	-1,075	-4.0%	123,473	109,788	13,685	12.5%	120,693	106,248	14,445	13.6%	138,409	129,098	9,311	7.2%	164,891	152,733	12,157	8.0%	93	72	
心臓血管外科	28,685	24,838	3,847	15.5%	10,760	10,341	419	4.1%	1,109,269	1,037,772	71,496	6.9%	1,098,409	1,030,378	68,030	6.6%	221,409	232,276	-10,868	-4.7%	1,137,954	1,062,610	75,343	7.1%	278	254	
脳神経外科	44,659	54,764	-10,105	-18.5%	13,657	16,809	-3,152	-18.8%	779,056	602,048	177,008	29.4%	765,842	591,347	174,494	29.5%	94,257	85,703	8,555	10.0%	823,716	656,812	166,904	25.4%	200	172	
整形外科	183,941	180,554	3,387	1.9%	7,905	7,645	261	3.4%	1,599,372	1,562,293	37,078	2.4%	1,554,102	1,518,968	35,134	2.3%	82,223	81,617	607	0.7%	1,783,313	1,742,848	40,465	2.3%	1,276	1,201	
形成外科	21,923	22,198	-275	-1.2%	6,771	6,607	164	2.5%	127,882	133,585	-5,703	-4.3%	124,989	129,946	-4,957	-3.8%	62,967	60,300	2,667	4.4%	149,804	155,783	-5,979	-3.8%	341	320	
皮膚科	44,024	44,506	-481	-1.1%	4,566	4,469	97	2.2%	80,847	85,067	-4,220	-5.0%	76,289	81,020	-4,731	-5.8%	44,561	42,110	2,451	5.8%	124,872	129,573	-4,701	-3.6%	183	164	
泌尿器科	226,576	242,351	-15,774	-6.5%	19,454	19,917	-463	-2.3%	577,980	593,967	-15,987	-2.7%	553,262	566,678	-13,417	-2.4%	74,483	76,838	-2,354	-3.1%	804,557	836,317	-31,761	-3.8%	679	701	
産婦人科	156,677	173,672	-16,994	-9.8%	7,703	7,521	182	2.4%	786,024	853,479	-67,455	-7.9%	754,690	814,391	-59,701	-7.3%	85,605	75,295	10,310	13.7%	942,702	1,027,151	-84,449	-8.2%	453	475	
眼科	86,159	90,630	-4,470	-4.9%	8,824	9,027	-203	-2.2%	86,084	80,180	5,904	7.4%	82,953	77,366	5,587	7.2%	74,733	73,332	1,400	1.9%	172,243	170,810	1,433	0.8%	440	486	
耳鼻いんこう科	153,905	142,250	11,655	8.2%	10,086	9,992	94	0.9%	239,938	244,997	-5,059	-2.1%	230,197	236,387	-6,190	-2.6%	56,504	55,153	1,351	2.4%	393,843	387,246	6,597	1.7%	241	239	
リハビリテーション科	739	1,559	-820	-52.6%	3,375	3,449	-73	-2.1%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	739	1,559	-820	-52.6%	0	0	
精神科	73,702	70,418	3,284	4.7%	6,462	6,331	131	2.1%	307,927	316,904	-8,978	-2.8%	301,253	309,674	-8,420	-2.7%	35,677	37,194	-1,517	-4.1%	381,629	387,322	-5,693	-1.5%	378	412	
放射線診断科	55,039	58,531	-3,492	-6.0%	32,918	36,108	-3,190	-8.8%	86	5,254	-5,168	-98.4%	86	5,254	-5,168	-98.4%	43,195	276,532	-233,337	-84.4%	55,126	63,786	-8,660	-13.6%	0	0	
放射線治療科	107,809	91,719	16,090	17.5%	21,957	21,276	681	3.2%	46,515	44,446	2,069	4.7%	44,849	43,331	1,518	3.5%	54,230	49,295	4,935	10.0%	154,324	136,165	18,159	13.3%	0	0	
歯科口腔外科	106,269	86,954	19,315	22.2%	7,361	6,342	1,019	16.1%	52,889	44,531	8,358	18.8%	51,521	43,634	7,887	18.1%	64,320	61,456	2,865	4.7%	159,159	131,485	27,674	21.0%	361	371	
救急科	273,467	255,208	18,259	7.2%	23,411	22,511	900	4.0%	800,967	861,223	-60,256	-7.0%	792,523	844,245	-51,722	-6.1%	104,803	101,802	3,001	2.9%	1,074,435	1,116,431	-41,997	-3.8%	1	1	
麻酔科	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	
合計	4,416,727	4,224,217	192,511	4.6%	15,573	14,916	657	4.4%	15,850,596	16,084,812	-234,216	-1.5%	15,395,520	15,593,829	-198,309	-1.3%	81,510	79,438	2,072	2.6%	20,267,324	20,309,029	-41,705	-0.2%	6,551	6,384	
	単位/千円	人間ドック 件数 金額		健康診断 件数 金額		合計 件数 金額																					
健診	令和元年	2,409	174,991	9,962	74,480	12,371	249,471																				
	平成30年	2,376	168,775	10,334	77,748	12,710	246,523																				
	増減	33	6,216	-372	-3,268	-339	2,948																				
	増減率	1.4%	3.7%	-3.6%	-4.2%	-2.7%	1.2%																				

令和元年度放射線科部業務実績

		令和元年度													
		人数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般	一般撮影	人数	4,432	5,061	5,311	5,532	5,133	4,487	5,102	4,918	5,035	5,105	4,420	4,726	59,262
	MMG	人数	197	191	206	228	225	238	288	240	251	203	185	239	2,691
	骨塩定量	人数	177	221	206	198	194	147	204	181	197	183	182	208	2,298
	OP、ポータブル	人数	1,177	1,417	1,201	1,360	1,309	1,048	1,120	1,238	1,305	1,352	1,162	1,271	14,960
	その他	人数	143	168	169	184	182	153	216	189	162	201	198	186	2,151
	合計	人数	6,126	7,058	7,093	7,502	7,043	6,073	6,930	6,766	6,950	7,044	6,147	6,630	81,362
	造影	血管造影検査	人数	199	170	187	176	176	152	186	145	184	140	170	135
	ハイブリッドOP室	人数	33	33	40	42	39	33	41	25	37	40	29	32	424
	消化器造影透視検査	人数	165	194	218	208	186	181	161	152	152	158	177	125	2,077
	泌尿器造影透視検査	人数	37	49	52	61	34	47	39	49	49	45	34	51	547
	他透視造影	人数	42	35	66	35	42	37	85	94	67	48	38	59	648
CT	一般診療CT(2F)	人数	1,838	1,832	1,979	1,959	1,822	1,763	1,908	1,886	1,866	2,051	1,744	1,547	22,195
	救急CT	人数	801	873	870	934	894	873	869	869	903	1,071	838	787	10,582
	合計	人数	2,639	2,705	2,849	2,893	2,716	2,636	2,777	2,755	2,769	3,122	2,582	2,334	32,777
MRI	1.5T	人数	519	546	555	590	548	536	506	524	533	536	466	526	6,385
	3.0T	人数	343	325	370	385	371	338	371	340	342	337	340	335	4,197
	合計	人数	862	871	925	975	919	874	877	864	875	873	806	861	10,582
核医学	RI	人数	98	98	129	102	96	91	97	104	80	105	89	95	1,184
	PET/CT	人数	99	87	94	98	93	83	91	79	71	78	56	69	998
治療	新規患者数	人数	18	27	26	28	22	18	27	22	26	20	14	19	267
	述べ照射件数	件数	489	593	799	831	756	554	591	669	762	672	480	560	7,756
読影対称検査数(CT、MR、核医学)			3,698	3,761	3,997	4,068	3,824	3,684	3,842	3,802	3,795	4,178	3,533	3,359	45,541

令和元年度臨床検査部業務実績

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
検体検査	一般(フランチ)	件数(項目数)	8,363	8,377	8,696	10,745	9,330	8,603	9,401	9,005	9,027	9,480	8,385	8,623	108,035	
	血液	件数(検体数)	20,981	22,344	21,092	22,913	22,280	20,914	21,376	20,525	21,221	22,402	19,551	20,797	256,396	
	血液凝固(フランチ)	件数(項目数)	8,706	9,207	8,832	9,890	8,983	8,116	7,958	8,104	8,332	8,888	7,350	7,705	102,071	
	生化学(フランチ)	件数(項目数)	169,436	178,747	169,918	216,700	182,402	169,280	173,626	167,150	172,654	184,770	158,033	168,594	2,111,310	
	免疫血清(フランチ)	件数(項目数)	7,787	8,019	7,907	10,243	8,119	7,450	8,018	8,013	8,018	8,329	7,605	7,707	97,215	
	一般細菌	件数(検体数)	1,649	1,659	1,583	1,675	1,674	1,701	1,547	1,446	1,595	1,894	1,433	1,607	19,463	
	栄養課職員便検査	従事者数	15	15	30	30	30	30	15	15	15	15	15	15	240	
	抗酸菌	件数(検体数)	158	157	124	172	119	121	154	129	152	156	112	93	1,647	
	迅速検査(フランチ)	件数(検体数)	325	413	329	454	396	375	429	459	631	694	458	413	5,376	
	血液ガス(フランチ)	件数(検体数)	1,090	1,103	1,071	1,192	1,193	1,037	1,063	1,164	1,116	1,328	1,042	1,072	13,471	
	合計	件数	218,510	230,041	219,582	274,014	234,526	217,627	223,587	216,010	222,761	237,956	203,994	216,626	2,715,224	
生理検査	心電図	件数	2,747	2,781	2,684	2,961	2,792	2,574	2,844	2,679	2,656	2,798	2,368	2,391	32,275	
	負荷心電図	件数	10	10	2	22	28	13	8	5	9	14	12	12	145	
	ホルター心電図	件数	151	151	122	129	122	115	122	117	133	128	122	117	1,529	
	血圧脈波検査	件数	118	105	113	133	126	103	126	108	116	132	110	108	1,398	
	自律神経検査	件数	49	31	31	47	20	24	39	28	29	27	23	33	381	
	呼吸機能	件数	345	416	421	472	438	370	416	404	387	380	361	376	4,786	
	筋電図検査	件数	8	6	8	8	1	1	5	6	8	5	4	8	68	
	脳波	件数	60	56	67	70	73	58	61	48	66	56	43	54	712	
	神経生理検査	件数	99	89	79	97	85	72	75	76	77	76	73	58	983	
	OAE	件数	61	63	89	54	69	56	60	66	66	59	42	70	755	
	体液量測定	件数	9	12	7	8	8	2	12	8	7	13	3	5	94	
	SPP	件数	19	9	3	5	5	3	8	5	4	5	3	5	74	
	耳鼻科検査	件数	762	652	713	730	656	620	634	673	760	714	581	647	8,142	
	心エコー	件数	730	711	737	837	753	691	718	719	742	760	647	865	8,910	
	その他エコー	件数	958	997	1,037	1,126	1,082	993	1,079	992	1,035	996	929	940	12,164	
	心カテ	件数	191	161	169	162	165	139	165	128	164	135	138	127	1,844	
	アレルギー	件数	457	486	549	637	486	460	506	545	463	488	397	228	5,675	
	合計	件数	6,774	6,736	6,831	7,498	6,909	6,294	6,878	6,607	6,722	6,786	5,856	6,044	79,935	
病理検査	組織診断	件数	662	616	620	668	641	595	597	591	638	532	590	634	7,384	
	迅速診断	件数	29	19	26	30	20	27	26	25	26	23	29	22	302	
	細胞診断	件数	374	380	439	472	433	385	459	386	433	441	342	385	4,929	
	その他	件数	69	53	49	59	63	44	49	38	36	34	47	52	593	
	病理解剖	件数	0	2	2	1	0	2	2	0	1	2	2	1	15	
		合計	件数	1,134	1,070	1,136	1,230	1,157	1,053	1,133	1,040	1,134	1,032	1,010	1,094	13,223
輸血関連検査	血液型	件数	876	752	752	886	752	654	711	675	739	769	691	687	8,943	
	不規則抗体	件数	733	736	706	831	695	592	642	619	671	689	634	623	8,171	
	クロスマッチ	件数	383	399	402	402	334	342	314	302	321	347	267	343	4,156	
	その他	件数	55	44	51	46	45	31	31	44	33	31	39	41	491	
		合計	件数	2,047	1,930	1,911	2,165	1,826	1,619	1,698	1,640	1,764	1,836	1,631	1,694	21,761
	Ir-RBC	単位	628	684	544	698	684	494	448	490	604	604	436	548	6,862	
	FFP	単位	483	294	243	372	528	219	168	372	267	249	228	204	3,627	
	Ir-PC	単位	1,135	1,545	1,165	835	880	565	600	755	510	515	620	630	9,755	
	自己血	単位	4	0	0	2	10	0	0	3	6	8	2	10	45	
		合計	単位	2,250	2,523	1,952	1,907	2,102	1,278	1,216	1,620	1,387	1,376	1,286	1,392	20,289
アレルギー関連検査	NIOX	件数	267	290	297	364	281	246	294	321	286	276	225	125	3,272	
	モストグラフ	件数	90	93	122	130	95	101	96	103	81	98	81	44	1,134	
	スパイロメトリー	件数	79	78	110	114	89	97	89	91	71	90	77	34	1,019	
	可逆性検査	件数	10	13	10	12	7	5	8	13	8	11	2	12	111	
	ブリックテスト	件数	11	12	10	15	13	10	18	17	17	13	12	12	160	
	精密肺機能	件数	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	1	6	
		合計	件数	457	486	549	637	486	460	506	545	463	488	397	228	5,702
時間外院内検査	患者数	2,475	2,741	2,426	2,563	2,649	2,476	2,309	2,313	2,698	3,207	2,251	2,191	30,299		
外来採血患者	患者数	6,001	6,139	6,006	6,532	6,188	5,916	6,227	5,883	6,101	6,177	5,464	5,770	72,404		
入院患者採血管準備数	患者数	3,462	3,763	3,567	3,851	3,707	3,131	3,370	3,165	3,415	2,622	3,144	3,350	40,547		
尿素呼気試験	患者数	21	32	18	13	21	16	9	19	14	19	19	16	217		
治験件数	患者数	19	14	11	23	21	16	22	15	15	13	17	9	190		
委託業務	院内検査業務委託	件数(項目数)	69,018	76,653	75,119	78,895	79,165	65,951	76,040	73,734	70,657	78,240	69,731	70,794	883,997	
	外注検査業務委託	件数(項目数)	12,584	11,460	12,595	12,814	12,699	11,627	11,734	12,782	13,518	11,988	12,477	11,338	147,616	

診療連携 心臓カテーテル検査に2~3名、耳鼻科に1名、アレルギーセンターに1名、それぞれ検査技師を派遣、ハイブリッドオペ室の稼働により心カテの派遣が増えた。

中央部門業務報告(処方箋枚数)

令和元年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	12,952	12,609	11,973	13,050	12,647	11,456	12,070	12,029	13,155	12,570	11,299	12,596	148,406
入院 注射	11,829	13,403	12,170	13,030	13,335	11,562	11,780	11,343	11,543	13,130	11,165	11,594	145,884
外来 処方	39	44	34	52	48	39	53	35	39	45	53	45	526
外来 時間外処方	431	508	518	635	594	570	538	514	544	542	456	370	6,220
外来 注射	1,532	1,593	1,707	2,282	2,214	2,109	2,355	2,502	2,283	2,211	1,939	2,089	24,816
院外処方箋	11,013	10,776	10,598	11,408	10,700	10,376	11,207	10,559	11,236	10,793	9,780	10,652	129,098
抗がん剤調製件数	540	595	492	600	614	501	613	559	536	591	521	612	6,774
TPN調製件数	10	32	29	59	59	50	39	86	130	79	35	13	621
薬剤管理指導算定件数	2,093	2,104	2,256	2,585	2,238	2,085	2,157	2,108	2,175	2,093	2,041	2,242	26,177
薬剤管理指導麻薬加算	34	33	49	52	33	40	37	38	35	31	30	34	446
退院時指導算定件数	720	643	734	810	749	667	754	744	832	738	727	773	8,891
がん指導管理料ハ算定件数	125	117	88	129	112	102	113	104	101	102	79	108	1,280
特定薬剤治療管理料2算定件数	8	8	6	11	11	10	10	8	10	10	11	12	115

中央部門業務報告（栄養課）

令和元年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	件数	21,461	22,258	21,812	23,124	23,110	20,890	21,160	20,921	21,955	21,784	20,289	21,104	259,868
治療食	件数	11,317	13,811	12,860	12,545	12,937	11,514	12,657	11,549	11,567	13,360	13,054	13,131	150,302
調乳	件数	325	227	315	340	410	334	265	350	321	349	203	326	3,765
栄養相談	件数	423	372	406	472	398	337	379	399	397	376	327	396	4,682
合計	件数	33,526	36,668	35,393	36,481	36,855	33,075	34,461	33,219	34,240	35,869	33,873	34,957	418,617

中央部門業務報告(リハビリテーション科部)

令和元年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
リ ハ ビ リ	理学療法	件数	3,076	3,108	3,220	3,405	3,660	3,281	3,589	3,407	3,691	3,649	3,430	3,718	41,234
	作業療法	件数	1,699	1,614	1,564	1,554	1,590	1,479	1,543	1,497	1,602	1,499	1,379	1,525	18,545
	言語聴覚療法	件数	722	599	534	542	555	528	636	446	318	409	379	447	6,115
	合計	件数	5,497	5,321	5,318	5,501	5,805	5,288	5,768	5,350	5,611	5,557	5,188	5,690	65,894

中央部門業務報告(内視鏡室)

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
上部消化管内視鏡	5,513	6,008	6,002
(内ドック件数)	1,942	2,128	2,115
下部消化管内視鏡	2,424	2,527	2,697
(内ドック件数)	146	130	145
気管支鏡	209	195	126
E R C P	445	460	481
超音波内視鏡	52	56	88

中央部門業務報告（透析室）

令和元年度

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透析	血液浄化療法	件数	341	313	286	328	317	254	274	323	351	310	255	288	3,640

中央部門業務報告（手術室）

令和元年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	375	369	384	410	438	352	373	383	433	407	379	407	4,710
局所麻酔	122	124	126	135	118	134	144	123	115	122	122	138	1,523
脊椎麻酔	21	18	12	13	11	11	19	14	15	22	23	17	196
脊椎・硬膜外併用	9	17	8	8	15	10	7	11	8	10	7	12	122
合計	527	528	530	566	582	507	543	531	571	561	531	574	6,551

損益計算書（令和元年度）

収 益	予算(A)	R1年決算(B)	H30年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益	21,796,220,000	21,141,625,962	21,178,699,055	-654,594,038	-37,073,093	-0.18%
医業収益	21,070,913,000	20,396,484,274	20,492,828,088	-674,428,726	-96,343,814	-0.47%
入院収益	16,084,265,000	15,371,302,618	15,609,968,958	-712,962,382	-238,666,340	-1.53%
患者延べ数(人)	199,723	188,879	196,302	-10,844	-7,423	-3.78%
患者1日平均(人)	546	516	538	-30	-22	-4.04%
診療単価(円)	80,533	81,382	79,520	849	1,862	2.34%
病床利用率(%)	86.07%	81.40%	84.83%	-0.30%	3.01%	-4.04%
平均在院数(日)		8.5	8.4		0.10	1.19%
外来収益	4,187,137,000	4,258,681,855	4,065,451,298	71,544,855	193,230,557	4.75%
患者延べ数(人)	282,737	283,612	283,205	875	407	0.14%
患者1日平均(人)	1,178	1,182	1,161	4	21	1.81%
診療単価(円)	14,809	15,016	14,355	207	661	4.60%
室料差額収益	471,857,000	432,515,050	465,706,720	-39,341,950	-33,191,670	-7.13%
保健予防活動収益	279,045,000	272,031,800	280,199,107	-7,013,200	-8,167,307	-2.91%
受託検査・施設利用収益	7,032,000	6,427,550	7,111,050	-604,450	-683,500	-9.61%
その他の医業収益	102,392,000	115,933,571	116,653,613	13,541,571	-720,042	-0.62%
保険等査定減	-60,815,000	-60,408,170	-52,262,658	406,830	-8,145,512	15.59%
医業外収益(医療社会事業収益含む)	723,774,000	743,609,295	685,864,201	19,835,295	57,745,094	8.42%
受取利息	0	0	0	0	0	
本部繰入金	172,000	291,920	170,159	119,920	121,761	71.56%
他会計繰入金	0	0	0	0	0	
運営費補助金等収益	380,143,000	383,463,424	394,350,668	3,320,424	-10,887,244	-2.76%
施設設備費補助金等収益	26,311,000	30,826,912	28,653,677	4,515,912	2,173,235	7.58%
患者外給食収益	0	0	0	0	0	
その他の医業外収益	317,148,000	329,027,039	262,689,697	11,879,039	66,337,342	25.25%
特別利益	1,533,000	1,532,393	6,766	-607	1,525,627	22548.43%
固定資産売却益	1,533,000	1,532,393	6,766	-607	1,525,627	22548.43%
貸倒引当金戻入益	0	0	0	0	0	
その他前期損益修正益	0	0	0	0	0	
その他特別利益	0	0	0	0	0	

費 用	予算(A)	R1年決算(B)	H30年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業費用	21,504,535,000	20,975,619,295	21,235,625,589	-528,915,705	-260,006,294	-1.22%
医業費用	21,147,277,000	20,641,689,329	20,799,603,487	-505,587,671	-157,914,158	-0.76%
材料費	5,908,284,000	5,937,896,383	5,779,359,401	29,612,383	158,536,982	2.74%
医薬品費	2,267,231,000	2,309,438,800	2,234,776,957	42,207,800	74,661,843	3.34%
診療材料費	3,402,952,000	3,395,429,377	3,312,763,470	-7,522,623	82,665,907	2.50%
給食材料費	147,496,000	128,930,207	139,610,488	-18,565,793	-10,680,281	-7.65%
医療消耗品費	82,177,000	94,515,673	84,328,105	12,338,673	10,187,568	12.08%
棚卸減耗損・評価損	8,428,000	9,582,326	7,880,381	1,154,326	1,701,945	21.66%
給与費	10,534,868,000	9,963,085,347	10,411,860,049	-571,782,653	-448,774,702	-4.31%
委託費	1,799,251,000	1,885,028,958	1,863,568,920	85,777,958	21,460,038	1.15%
設備関係費	1,933,443,000	1,951,321,438	1,820,637,951	17,878,438	130,683,487	7.18%
減価償却費	726,207,000	743,541,402	664,101,474	17,334,402	79,439,928	11.96%
器械賃借料	3,847,000	28,525,753	5,513,368	24,678,753	23,012,385	417.39%
指定管理者負担金他	676,933,000	671,347,939	673,913,720	-5,585,061	-2,565,781	-0.38%
修繕費	184,546,000	175,422,505	182,915,570	-9,123,495	-7,493,065	-4.10%
器械保守料	341,056,000	331,400,905	293,332,380	-9,655,095	38,068,525	12.98%
その他	854,000	1,082,934	861,439	228,934	221,495	25.71%
研究研修費	62,200,000	56,701,903	62,580,600	-5,498,097	-5,878,697	-9.39%
経費	909,231,000	847,655,300	861,596,566	-61,575,700	-13,941,266	-1.62%
通信費	21,500,000	21,403,808	20,961,243	-96,192	442,565	2.11%
消耗品費	81,000,000	69,447,289	76,034,086	-11,552,711	-6,586,797	-8.66%
水道光熱費	432,600,000	410,358,636	425,839,614	-22,241,364	-15,480,978	-3.64%
賃借料	169,000,000	143,787,393	149,772,693	-25,212,607	-5,985,300	-4.00%
租税公課	23,359,000	20,952,921	20,995,396	-2,406,079	-42,475	-0.20%
その他	181,772,000	181,705,253	167,993,534	-66,747	13,711,719	8.16%
医業外費用(医療奉仕費用含む)	341,520,000	325,461,485	421,933,618	-16,058,515	-96,472,133	-22.86%
支払利息	9,828,000	9,233,567	11,832,735	-594,433	-2,599,168	-21.97%
患者外給食費用材料費	1,065,000	1,024,110	1,023,453	-40,890	657	0.06%
看護師等委託養成費	28,200,000	14,350,000	36,050,000	-13,850,000	-21,700,000	-60.19%
診療費減免額	249,000	2,621,650	1,617,710	2,372,650	1,003,940	62.06%
本部繰出金	11,677,000	11,587,414	5,810,727	-89,586	5,776,687	99.41%
他会計繰出金	4,200,000	4,200,000	3,632,106	0	567,894	15.64%
退職給付債務変更時差異	0	0	107,061,691	0	-107,061,691	-100.00%
その他医業外費用	286,301,000	282,444,744	254,905,196	-3,856,256	27,539,548	10.80%
特別損失	15,603,000	8,334,478	14,088,484	-7,268,522	-5,754,006	-40.84%
固定資産売却損	1,135,000	1,134,517	983,397	-483	151,120	15.37%
固定資産除却損	14,468,000	7,199,961	13,105,087	-7,268,039	-5,905,126	-45.06%
前期損益修正損	0	0	0	0	0	
その他特別損失	0	0	0	0	0	
法人税等	135,000	134,003	0	-997	134,003	

経常損益(特別収支を除いたもの)	305,890,000	172,942,755	-42,844,816	-132,947,245	215,787,571	-503.65%
医業損益	-76,364,000	-245,205,055	-306,775,399	-168,841,055	61,570,344	-20.07%
純損益	291,685,000	166,006,667	-56,926,534	-125,678,333	222,933,201	-391.62%

貸 借 対 照 表

令和2年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位: 円)

資 産 の 部			負 債 及 び 純 資 産 の 部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金		3,301,576	買掛金	1,252,943,666	
預金		1,243,177,644	未払金	1,092,818,008	
医業未収金	3,267,386,605		短期借入金	637,600,000	
貸倒引当金	45,211,375	3,222,175,230	未払費用	178,658,248	
未収金		89,805,367	未払法人税等	0	
有価証券		0	前受金	74,538,022	
医薬品		59,994,074	預り金	31,774,900	
診療材料		0	職員預り金	64,238,448	
給食材料		1,393,463	前受収益	60,000	
貯蔵品		89,736	賞与引当金	502,189,218	
前渡金		0	資産除去債務	0	
前払費用		50,968,441	その他の流動負債	301,841,454	
未収収益		2,853,836	流動負債合計		4,136,661,964
短期貸付金		0			
繰延税金資産		0	2. 固定負債		
その他の流動資産		159,770,458	長期借入金	1,001,600,000	
流動資産合計		4,833,529,825	長期未払金	663,669,351	
			預り出資金	0	
2. 固定資産			退職交付受入金	0	
(1) 有形固定資産			退職給付引当金	6,255,004,111	
建物	128,259,810		医療訴訟引当金	0	
建物減価償却累計額	27,592,732	100,667,078	長期前受補助金等	208,895,334	
建物付属設備	742,096,107		資産除去債務	0	
建物付属設備減価償却累計額	349,364,407	392,731,700	その他の固定負債	0	
構築物	20,522,740		固定負債合計		8,129,168,796
構築物減価償却累計額	11,613,653	8,909,087			
医療用器械備品	6,686,561,876		3. 負債合計		12,265,830,760
医療用器械備品減価償却累計額	5,627,630,496	1,058,931,380			
その他の器械備品	1,581,799,610		4. 基本金		15,986,453
その他の器械備品減価償却累計額	651,141,915	930,657,695			
車両	21,121,030		補助金等		
車両減価償却累計額	20,191,942	929,088	本社交付金	0	
放射性同位元素	0		支部繰入金	0	
放射性同位元素減価償却累計額	0	0	その他の繰入金	0	
その他の有形固定資産	55,371,500		補助金	0	
その他の有形固定資産減価償却累計額	5,982,240	49,389,260	寄付金	54,040,000	
土地		0	固定資産再評価益(損)金	2,566,395	
建設仮勘定		0	固定資産処分益(損)金	0	
有形固定資産合計		2,542,215,288	5. 補助金等合計		56,606,395
(2) 無形固定資産			利益剰余金		
借地権		0	当期末処分利益(損失)	-2,187,354,635	
ソフトウェア		21,625,020	6. 利益剰余金合計		-2,187,354,635
その他の無形固定資産		62,125			
無形固定資産合計		21,687,145	有価証券評価差額金		0
(3) その他の資産			純資産合計		-2,114,761,787
有価証券		0			
長期貸付金		85,200,000			
預金		0			
長期未収金		0			
長期前払費用		5,013,344			
施設整備準備積立金		0			
病院建物建設資金出資金		738,653,025			
病院財政調整事業資金出資金		352,188,530			
出資金		217,850			
退職拠出金		1,572,313,436			
前払年金費用		0			
預託金		50,530			
繰延税金資産		0			
その他の固定資産		0			
その他の資産合計		2,753,636,715			
固定資産合計		5,317,539,148			
資産合計		10,151,068,973	負債及び純資産合計		10,151,068,973

令和元年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金額
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	166,140,670
減価償却費	750,822,241
所有有形固定資産減価償却費	482,854,852
リース有形固定資産減価償却費	253,324,079
所有無形固定資産減価償却費	14,643,310
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	1,092,000
貸倒引当金の増減	5,971,148
賞与引当金の増減	5,208,576
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	79,098,001
退職拠出金の増減	-115,938,343
前払年金費用の増減	0
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-38,107,750
受取利息	0
支払利息	9,233,567
有形固定資産売却損	1,134,517
有形固定資産除却損	7,199,961
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	0
有形固定資産売却益	-1,532,393
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	0
医業未収金の増減	157,332,872
未収金の増減	2,498,801
医薬品の増減	-4,938,216
診療材料の増減	0
給食用材料の増減	136,492
貯蔵品の増減	26,321
前渡金の増減	0
前払費用の増減	3,844,093
未収収益の増減	519,639
その他流動資産の増減	-7,600,870
買掛金の増減	17,992,682
未払金の増減	-137,995,693
未払費用の増減	82,005,926
前受金の増減	-24,204,732
預り金の増減	23,976,926
職員預り金の増減	-24,487,109
前受収益の増減	60,000
その他の流動負債の増減	-26,965,805
その他	14,349,996
小計	946,873,518
利息の受取額	0
利息の支払額	-9,233,567
法人税等の支払額	-134,003
業務活動によるキャッシュ・フロー(A)	937,505,948

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	0
定期預金の払戻による収入	0
有価証券の取得による支出	0
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-503,346,820
所有有形固定資産の売却による収入	6,722,800
所有無形固定資産の取得による支出	-7,452,000
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	-4,907,200
施設設備補助金等の受入による収入	16,397,566
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-18,900,000
長期貸付金の回収による収入	5,700,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-40,985,656
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-14,344,979
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	0
預託金の払戻による収入	0
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	190,134
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	-560,926,155
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減	0
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-337,600,000
リース債務未払金の返済による支出	-260,992,960
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	-498,592,960
4. 現金及び現金同等物の増加額 (A+B+C)	-122,013,167
5. 現金及び現金同等物期首残高	1,368,492,387
6. 現金及び現金同等物期末残高	1,246,479,220

※ 病院収益合計	21,141,625,962
※ 病院費用合計	20,975,619,295
※ 法人税等計	134,003